

平成23年第7回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

平成23年12月12日（月曜日）

議事日程第3号

平成23年12月12日（月曜日）

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 26名

〈出席議員〉 26名

+

1番	甲	村	聰	君	2番	保	坂	悟	君
3番	斉	木	勇	君	4番	渡	辺	重	雄
5番	古	畑	浩	一	君	6番	後	藤	善
7番	田	中	立	一	君	8番	古	川	昇
9番	久保	田	長	門	君	10番	保	坂	良
11番	中	村	実	君	12番	大	滝	一	豊
13番	伊	藤	文	博	君	14番	田	原	実
15番	吉	岡	静	夫	君	16番	池	田	達
17番	五十嵐	健	一	郎	君	18番	倉	又	稔
19番	高	澤	公	君	20番	樋	口	英	一
21番	松	尾	徹	郎	君	22番	野	本	信
23番	斉	藤	伸	一	君	24番	伊井	澤	一
25番	鈴	木	勢	子	君	26番	新	保	峰

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市 長	米 田 徹 君	副 市 長	本 間 政 一 君
総 務 部 長	田 鹿 茂 樹 君	市 民 部 長	吉 岡 正 史 君
産 業 部 長	酒 井 良 尚 君	総 務 課 長	渡 辺 辰 夫 君
企 画 財 政 課 長	斉 藤 隆 一 君	能 生 事 務 所 長	久 保 田 幸 利 君
青 海 事 務 所 長	扇 山 和 博 君	市 民 課 長	竹之内 豊 君
環 境 生 活 課 長	渡 辺 勇 君	福 祉 事 務 所 長	池 亀 郁 雄 君
健 康 増 進 課 長	伊 奈 晃 君	交 流 観 光 課 長	滝 川 一 夫 君
商工農林水産課長	金 子 裕 彦 君	建 設 課 長	串 橋 秀 樹 君
都 市 整 備 課 長	金 子 晴 彦 君	会 計 管 理 者 会 計 課 長	山 崎 弘 易 君
ガ ス 水 道 局 長	小 林 忠 君	消 防 長	山 口 明 君
教 育 長	竹 田 正 光 君	教 育 委 員 会 教 育 総 務 課 長	結 城 一 也 君
教 育 委 員 会 こ ど も 課 長	山 崎 光 隆 君	教 育 委 員 会 生 涯 学 習 課 長	
		中 央 公 民 館 長 兼 務	田 原 秀 夫 君
		市 民 図 書 館 長 兼 務	
		勤 労 青 少 年 ホ ー ム 館 長 兼 務	
教 育 委 員 会 文 化 振 興 課 長			
歴 史 民 俗 資 料 館 長 兼 務	小 林 強 君	監 査 委 員 事 務 局 長	横 田 靖 彦 君
長 者 ケ 原 考 古 館 長 兼 務			

+

+

〈事務局出席職員〉

局 長	小 林 武 夫 君	係 長	松 木 靖 君
主 査	大 西 学 君		

〈午前10時00分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はございません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（古畑浩一君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、10番、保坂良一議員、23番、斉藤伸一議員を指名いたします。

日程第2. 一般質問

○議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

9日に引き続き通告順に発言を許します。

甲村 聡議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。〔1番 甲村 聡君登壇〕

○1番（甲村 聡君）

おはようございます。

発言通告書によりまして一般質問を行います。

1、ごみ処理施設へのKDV低温触媒イオン交換型ディーゼル燃料製造装置（生ごみ、プラスチックから軽油を造る装置）の導入について、市長の見解を伺います。

平成21年12月に奴奈川クラブは、この装置の説明会に参加しており、政務調査報告書を提出しております。

また、平成22年6月定例会の一般質問において、この装置について担当課長は、次のように答弁されております。「まさに夢のような施設だと思っております。環境産業としての取り組みという側面からも注目される。技術的、採算面から実証が進むことを注目している。ただ、その後、特に動きがないので、今後、情報収集してまいります。」とあります。

現在の日立製作所のごみ処理施設は炭化システムという、ある面で理想的なシステムということで採用されたシステムでありましたが、設置当初からトラブルが続出し、処理された炭化物から環境基準を超える水銀が含まれていたにもかかわらず、最終処分場に埋め立てられ、現在、最終処分場が休止となっております。しかしながら、この施設の運転に関して、今後5年間の契約延長が決定されております。

そのことを踏まえてでありましょう。糸魚川市ごみ処理施設あり方検討委員会が設置されました。目的として、当市における一般廃棄物処理について処理システム全体を見通しながら、ごみ処理施設等の今後の整備方針の策定に必要な検討を行うものとあります。ちょうどよい時期でありますので、ごみ処理施設へのKDV低温触媒イオン交換型ディーゼル燃料製造装置の導入（生ごみ、プラスチックから軽油を造る装置）について、市長の見解を伺います。

(1) 次期ごみ処理施設を検討する上での基本方針を伺います。

(2) KDV低温触媒イオン交換型ディーゼル燃料製造装置の特徴や、運転条件について下記の項目における考えを伺います。

① 使用可能な材料（一般家庭ごみ、廃プラスチック、木質材料、農業残渣、動物残渣、家畜し尿、廃油）について。

- ② 原材料別（ドライベースにおける）平均収率（一般家庭ごみ５０％、廃プラスチック８０％、木質材料３５％、農業残渣３０％、動物残渣４０％、廃油８５％）について。
 - ③ 何万年もかけて生成させた石油を数時間の処理で生成できることについて。
 - ④ 製造した燃料でシステムを稼動するため、ランニングコストはゼロであり、製造燃料の約１０％で稼動できることについて。
 - ⑤ 材料投入条件（各材料とも含水率３５％以下、５cm角、厚さ５mm以下に破砕されていること。）について。
 - ⑥ 処理後の残渣はドライベースで４から５％となることについて。
 - ⑦ PRS有機廃棄物リサイクルシステム（亜臨界水反応・煮熟方式処理）は原料として畜ふん、活性汚泥、生ごみ等をおがくずなどのセルロース成分と一緒に密閉容器に投入し、高温（約２００℃）高圧（１５から２０気圧）の飽和水蒸気により約１時間かくはんし、有機物を低分子化する処理方法について。
 - ⑧ 植物経由で生成された軽油は、燃焼してもＣＯ_２増加にカウントされないことについて。
 - ⑨ ごみの分別収集への市民の負担軽減につながるについて。
- (3) 廃棄物完全リサイクルシステム（ゼロエミッション）への認識と今後の対応について伺います。

以上、１回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

甲村議員のご質問にお答えいたします。

１番目の１点目につきましては、ごみ処理施設のあり方検討委員会を設置しており、生活環境の保全に配慮したものであること。循環型社会形成及び地球温暖化に資することなどを基本として、整備方針について検討してまいります。

２点目の１つ目から９つ目までにつきましては、昨年の６月市議会定例会の一般質問でもお答えいたしました。このシステムは二酸化炭素の削減など、ドイツで発明された環境負荷の少ない新しいエネルギーシステムであると認識いたしております。

しかしながら、現在、この実証プラントが国内では稼働している実態がないことから、当市での導入につきましては、現状では無理であると考えております。

３点目につきましては、発生する廃棄物をゼロにすることを目的とするゼロエミッションは、環境問題を考える上で重要な取り組みであり、資源化できるものは資源化することを基本に、リサイクルを進めてまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1 番（甲村 聡君）

2 回目の質問に入ります。

ただいま市長の答弁においては、日本において実際稼働している装置はないということで、今現在では、この装置の導入は無理であるという見解が示されましたが、それぞれのこの KDV における特徴を少し申し上げて、そのものについての可能性、また見解というものを伺いたいと思っております。

①使用可能な材料ということで、先ほど 1 回目の質問でも申し上げましたが、この部分の中で、廃棄バイオマスや余剰なバイオマスから燃料をつくるため、食料との競合がなされないという 1 つの魅力的な条件が出てきとるんですが、これについて、どのように受けとめられておるか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

確かに使用可能な材料で、一般家庭ごみとか廃プラスチックと、その他ありますけども、ほとんどの有機物を利用して、一般的なバイオ燃料のように人間の食物と競合しないということでございますので、これはこのことがなされれば、すばらしい施設だなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1 番（甲村 聡君）

必要な材料ということで少し紹介しました。その部分の中で軽油がつくられる収率ですね、この部分について一般家庭ごみ 50 %、廃プラスチック 80 %、そしてまた廃油が 85 %、この処理装置を通じることによって生成されると、こういう部分についての受けとめ方はどうですか。

先ほど市長の答弁では、全体のところで実証されてないという部分で一くくりだったんですけども、このことについて受けとめ方をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

原材料別に平均収率が、一般家庭ごみ 50 %、それから廃プラスチック 80 %ということでございますけども、バイオマスからの収率が低いかなというふうに思っております。

この説明を聞いたときには、廃プラスチック 70 %、プラスチック 30 %が理想的だというふうに聞いておりますので、当市のごみの現状からいきますと、廃プラスチック 70 %というのは、ちょっと大きいかなと。実際には、そんなに廃プラスチックがないということでは、若干この辺のと

+

こについては、問題があるのかなというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1 番（甲村 聡君）

実際処理しておる燃えるごみの処理においての比率が、廃プラスチックは少ないという受けとめ方でありますけれども、こういうものから有機物に関して、これだけのものが収率として上がると。これは非常に注目すべき1つの装置ではないかと、このように思ってるんですね。その部分も、ちゃんと踏まえておいていただきたいと思います。

それから、この3番目なんですけれども、何万年もかけて石油が原油として採掘されとる。生成までに何万年もかかるというものが、数時間の処理で軽油が生成されるという事実があるわけですね。そういうものが日本には、今、実際にプラントとしてはありませんけれども、そういうものの技術確立ができたということについて、どのように受けとめられますか、お伺いしたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

この機械の一番の売りが、このことだろうというふうに認識しております。廃棄物として処理されているものを有効活用できるという点では、すぐれているのかなというふうに感じております。

ただし海外ではあっても、日本でやはり実証プラントがないということで、それをじかに確認できないという点では、若干、不透明なのかなというふうに思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1 番（甲村 聡君）

この技術について少し紹介したいと思いますけれども、この発明者は、ドイツ人の科学者のクリスチャン・コッホ博士であります。博士は触媒技術の専門家であり、30年にわたる研究開発の結果、触媒無圧解重合の製法を開発されたとのことです。

この装置の概要は、特殊な触媒を用いて一定の温度条件（処理温度は350℃以下）、一定の圧力条件、処理圧力・マイナス0.1気圧、完全密閉構造で有機物の炭素、水素の分子結合を解き、軽油を生成する装置であります。

先ほどから問題になっておりますが、実績が日本にはないということですが、実績として、メキシコ、カナダ、ブルガリア、ドイツ、スペインがあるということでありますので、間違いなくこの装置が稼働しとる事実もあると。このことについて、どのように受けとめられますか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

お答えします。

海外で幾つかのプラントが動いてるという今お話でございますけども、私どもはやはり今までの経験からしまして、身近なところで長い時間、安定的に運転しているという実態を、きちっと調査する必要があると思っております。今、海外で動いているということではありますが、なかなか調査もできないし、また、多分稼働してからの時間数も、それほど多くはないと思っておりますので、やはりいろいろ情報収集、あるいは研究をしてはいかなければなりませんけれども、やはり実際に、じゃあ糸魚川市が導入するに当たっては、今申し上げたような実態がきちっとしてないと、なかなか導入できないということでございますので、いろいろ情報をお聞かせいただく中で、いろいろ調査を進めていきたいと思っておりますけれども、実証については、まだまだだというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1番（甲村 聡君）

あまり理想的な部分で、信頼性がむしろ薄いかもしれない。実証的になってないという慎重さは、ごみ処理施設において、非常にご苦労された面も十分に含んでおるだろうと私も受けとめておりますけども、この部分をどのような形であるのかということ、もう少し検証しながらお話をさせていただきたい。

その中で、ある面で経済性の面ではランニングコストがゼロという部分が、軽油ができるからその分を燃料として、また発電としての装置を使って、稼働燃料の約10%で稼働できるということについての受けとめ方はどうでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

今ほどランニングコストはゼロということで、製造燃料の約10%で稼働できるということでございますが、実際にごみ処理を行う場合は、この処理施設の前に、やはり前処理をやらないといけないということで、乾燥や破碎が必要になってくるということと、実際の一般ごみを処理する場合は、重金属等の処理が必要になってきますので、そらの装置も必要だということから、ランニングコストについては、その辺のところは不明なものがありますから、ここではどうこうということ、は、ちょっと言えないのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1番（甲村 聡君）

このシステムの稼働ということで、前処理が必要だと。また、重金属と金属との分別がどうかと

いう部分の心配があるということで、今現在ごみ処理施設において、前処理施設がありますよね。ということになれば、この材料の導入条件、こういうものが確保されるかどうかということも出てくるわけですが、乾燥炉もあるということの中で、ここに破碎処理もあるということについて、この条件は、ある面では整ってると、私、受けとめておるんですけども、その部分について見解を伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

前処理につきましては、この施設については、含水率35%以下、それから5センチメートル角、厚さ5ミリ以下ということでありますので、現在、糸魚川市でやっている前処理の基準とは合わないであります。糸魚川のはもっと大きくなりますので、そういう意味では、この機械を導入するに当たっては、新たな前処理施設というものが、必要になってくるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1番（甲村 聡君）

製造燃料の約10%で稼働できると。この部分についてのプラントの稼働率の部分だと。前処理については、まだエネルギーがかかる。破碎するにしても、乾燥するにしてもエネルギーがかかるということで、この10%という部分は、もっと上がるだろうという試算は、多分推測で私もそういうことはあるだろうということではありますが、例えば10%、この前処理施設を稼働するエネルギーからすれば、もっとこの10%よりも上がるかもしれませんけども、ランニングコストは非常に少なくなる。今現在の処理施設とは違った次元の部分の実現が、可能な部分はあるんじゃないかと。

もう1つ魅力的な部分だと思うんですけども、処理後の残渣ですね、これがドライベースで4から5%ぐらいになるということがあるわけですね。現在の炭化システムに比べて、大幅な減量になる可能性があると思われませんが、これについてどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

残渣のことで、ドライベースで4から5%ということですが、一般的な処理施設ですと10から15%ぐらい残渣が出るというふうに認識しております。ただ、今回、糸魚川市がやっている炭化システムについては、炭化物を生成していますので残渣そのものは約2%ぐらいにおさまっているという点では、うちの今の施設のほうが、残渣に関してはすぐれているのかなというふうな見解でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1 番（甲村 聡君）

今、渡辺課長が、今現在の炭化システムは2%ぐらいという数字が示されましたけども、今、実際に処理して搬出する場合、含水率が高いという部分でドライベースで2%であっても、実際搬出して処理してもらってる。また、埋め立てをした経緯の中で、含水率が上がって処理量がふえとるわけですね。これについてはどうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えします。

今言われた含水率というのは、炭化物の含水率であろうというふうに認識しております。

一応残渣というのは、炭化物を除いた灰、それから飛灰ということで認識していますので、炭化物とはちょっと、それを別に置いて、2%ということでご説明いたしました。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1 番（甲村 聡君）

それについてもわかりました。

ただ、炭化物は処理施設から出て、その部分が処分に経費としてかかってくると。その分も量からすれば、このドライベースで、それしか出ないというものに比べてどうかという部分を、少しお聞きしたかったんです。もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

炭化物については実際の話、処理料を払って処理をしてるということでございますが、基本的には、これについてはリサイクルをされているという考え方から、残渣には含めなかったものでありますが、年間約3,000トンと炭化物が出てますので、それを例えば含めると約25%ぐらいという形になりますが、そういうことで私の考えとしては残渣に含めず、2%というふうにお答え申し上げます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

+

甲村議員。

○1 番（甲村 聡君）

先ほど金属類の部分の心配があるということでありましたが、この軽油には金属分が含まれなくなるわけですね。そうすると金属類は別に出てくると。排出されるということで、分別が可能なのですね。その軽油の中に、金属が含まれるということはないという考え方でよろしいのではないかと。そういう面で、金属類も回収されて分別ができるという可能性。残渣の部分とは違った部分で回収できる。残渣につきましては、肥料やセメント原料に再利用が可能だという部分が出てくるといことでありますので、この点についてどうでしょうかね。金属は金属として回収される。残渣については、肥料とかセメント材料に再利用可能だということですが、吉岡部長、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

お答えします。

鉄だとか銅だとか、そういう有価金属は事前に回収できると思います。先ほど渡辺課長が言ったのは、いろいろごみの中に微量に含まれる例えば水銀だとか、セレンだとか、そういった有害物質が残渣の中に取り込まれるのではないかと、要するに残されるのではないかと。その処理について、非常に懸念があると。実際の動かしている施設についても飛灰の中に、そういった有害な微量な金属が濃縮されて問題になっというわけですから、この辺がまだ十分はつきりしないので、その辺はやっぱりしっかりと調査する必要があると思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1 番（甲村 聡君）

私もこの資料の中では読み取れないという部分がありますので、回収ができるという文言だけで、絶対これは大丈夫だということは、今現在申し上げられませんので、この部分については調査が必要だと思っています。

それからPRS有機廃棄物リサイクルシステム、この亜臨界水反応という煮熟方式で、原料を例えば畜ふん、それから活性汚泥、そういうものをセルロース、おがくずだとかわらだとか、そういうものの繊維質をまぜることによって、温度は200度ぐらい、15から20気圧ですから密閉容器の中で圧力かけてという処理をするということですね。この部分の中で、今まで処理できなかった分を処理できる装置が出現したということでもあります。

これにつきましては、NHKの富山放送局が報道しております。この分はバッチ方式のために、そのことによって魚残渣だとか、鶏ふんだとか、廃棄物野菜は飼料にはなると、分別すれば。それから牛ふん、畜ふん、わら、間伐材は、また肥料に使えるという1つの部分が、ある面では一定の容器の中に入れて処理するということで、また、その液体が出てくる。その分については木酢液になるということで、土壌の消毒だとか、消臭剤だとか、自然農薬ということで利用されております

けども、その部分が十分活用できる要素を持っとるそうだという表現がありますし、これはまことにすばらしい装置ではないかと。NHKでの富山放送局でも報道されておるといふ事実がありますので、その点について評価なり受けとめ方をお聞きしたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

今の煮熟方式については、ウイルスや菌類を完全に死滅できると。それから汚物臭や腐敗臭が消えるとか、それから2、3週間で堆肥化ができるというふうなものであるということで説明を受けておりますので、それがそのとおりであれば、確かにいい施設だなというふうには感じますけども、これをつくった会社のホームページを見させてもらうと、まだ導入実績のところに出ていないので、その辺のところは少し気がかりだなというふうには感じております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1番（甲村 聡君）

まことに実績が少ないという立場で答弁されておりますが、それについては実証がなかなか難しいという部分かもしれません。

それから、この分の軽油が製造された場合、植物経由であればCO₂の増加にはカウントされないという非常に魅力的な、環境のCO₂の部分の排出に関して、地球温暖化の防止にも非常に寄与できる可能性を持っておるのではないかと、このことについてはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

植物経由で生成された軽油を燃焼しても、CO₂の増加にカウントされないということは、これは事実であると思います。そんなことから、このシステムが本当に稼働した場合には、地球温暖化防止や環境負荷低減に貢献できるものだというふうには考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1番（甲村 聡君）

それから、ごみ分別収集を今現在、糸魚川市で行っておりますね。その中で分別できないものが回収されないという事実もあって、非常にそれぞれの地区で清掃当番なりおられて、それが回収さ

れていなければ、それを持ち帰り、分別してまた出し直すという1つの労力がかかっておるわけです。

それでまたその中で、ある面でこの部分があれば少々、分別は大事だと私も思っております。その中で、そういうものの回収がしやすくなると。この部分については市民の方々の負担軽減につながるのではないかと。それから、ごみに関しての基本計画ですか、策定されて、ある面では有料化という文言も、その中に入っておりますよね。そういう部分の中からすれば、この部分の中で有料化という文言が消え去る可能性を持っとるのではないかと、このように思うんですけど、そこら辺はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

このシステムの場合、先ほどからお聞きしますように、有機物全体から燃料を得るというすばらしいシステムだと思っております。ただ、どうしてもごみの処理には、収集、運搬という業務もございます。それと今言ったように、処理をするという業務もあります。それとあと、最後に残った残渣、ここでは残渣なんですけども、それを処理をするということになります。

しかし、その経費がどのくらいかかるかということも、今後、調査しなければなりません、やはり一般市民からごみを減らしていただくと、こういう目的で有料化をするわけでございますので、とにかく使えるものは使っていただくと、それから不要なごみになるようなものは買わないと、こういう姿勢が必要でございますことから、有料化とこの問題とは、多少違うのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1番（甲村 聡君）

施設の基本方針に少し戻りたいと思うんですけども、糸魚川市のあり方検討委員会のスケジュールでは、平成24年2月に環境保全整備、安全性、安定性、信頼性、本市の処理システムへの影響、資源エネルギー回収性、経済性等を検討するというようなスケジュールが示されておりますけども、ある面で、私、ここのKDVの装置について紹介しておりますけども、そういう部分も含めて検討されるのかどうか。これは市長の見解では、無理ですというような見解なんですけども、その部分が含まれるかどうかについてお伺いしたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

次期ごみ処理施設の検討につきましては、現処理施設の導入経過も踏まえまして、やはり技術が確立しておって、シンプルなシステムのものを1つ考えていかなきゃいけないのかなというのが、

大前提にあるというふうに理解しておりますので、やはりまだ今、国内で実証プラント等がないということで、なかなか確認しづらいシステムについては、今そこにそれを乗っけてくるというのは、ちょっと難しい状況かなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1番（甲村 聡君）

あくまでも国内における実証という部分が、立場であるということについては変わっておりません。この部分も、ある面では非常に素晴らしいとすれば、これについての検討の部分は必要ではないかと私は思っております。

ゼロエミッションの部分の中で、少しお伺いしたいんですけども、ゼロエミッションというのは、なかなかよくわかりにくいと。ちょっと私、調べたんですけども、提唱者はG・パウリという方でありまして、何も無駄にしない、すべての廃棄物に付加価値を見出して利用し尽くす。技術体系や経営手段を意味する理念ということであります。

背景には、残留物はその産業の活動内で再利用してもいいし、付加価値のあるインプットとして他産業に用いてもよいが、とにかく、すべての原材料を完全に利用したとき、加工産業は初めて潜在能力を最大限に発揮することになるとの考えがある。

廃棄物が排出されにくい生産方法が採用されなければならないし、廃棄物が生じた場合、リサイクル等の活用方策を考えなければならない。生産方法の革新や産業間連携の強化に伴って、結果として、廃棄物の排出をゼロにするのである。個々の企業レベルから1つの地域や工業団体のレベルまで、実験的な試みが続けられている。ただ、1つの企業でゼロエミッションを達成したとしても、経済全体で廃棄物の発生が抑制されなければ意味がないという、ゼロエミッションのとらえ方を1例として申し上げます。

例えば耕作放棄地の増加が問題になっておりますけども、その耕作放棄地に藻を発生させて、PRSやKDVの装置で処理することによって軽油が生成される。また、他の保水機能も確保されますし、また、再復旧が容易になるという部分も考えられますけど、こころ辺について受けとめ方をお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

藻からということで、これについては各方面で今研究がなされている最中で、かなり有力な資源になるというふうなことで認識はしております。

今のこのシステムについても、藻でやるのが一番石油の生成率が上がるという説明を受けておりますので、その辺については今後検討の課題にはなろうかと思います。確かに遊休地で藻等を栽培して、それが石油になるということであれば、これは素晴らしいシステムだなというふうに思っております。

ただ、これもやはりまだ実証とか、そういうような段階でございますので、やはりその辺のことが確立された上で、検討になるのかなというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1 番（甲村 聡君）

非常に実現しにくい環境が、今あるのではないかと考えておりますけども、もう1つ、もしこの部分がPRSやKDVが採用された場合、一般廃棄物最終処分場が問題になっておりますね。その部分の中で、今までずっと埋められた部分を再資源化ができると。また、今、水銀の化合物が混入されているということで、その部分を排除してほしいという意見もありますよね。その中で、それが資源化されて、その部分も排除される可能性をそのものの中では持っておると。有機物が多く埋まっておる最終処分場でありますので、その部分の解決も出てくるんじゃないか。この点についてはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

今ほど最終処分場に埋められているものの処分ができるのではないかと。確かにそういうことであればいいんですけども、やはりあそこは今見てご存じのとおり、廃棄物の上に土砂等いろいろ重なって入っているわけです。それを分別して動かすということが、日本環境衛生センターでは、今安定化しているものをそういうふうに動かすことによって、逆にそういう重金属が水の中に流れ出したりするという心配がある。したがって、今はやはり安定化させておくのが一番だということでございますので、あまりいじらないほうがいいのではないかとこのように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

甲村議員。

○1 番（甲村 聡君）

将来においてという部分をつけ加えたわけです。これを安定化して、将来的に資源化される可能性を持っておると。その部分をきちっとした処理をして、安定化させる方向について私は異存はございませんし、きちっとしていかならん。しかし、そういう部分の最終処分場の問題があった部分を解決できる1つの方策として、そういうものがあると。将来にわたって、この部分が解決できる、心配を取り除くことが可能だということです。という部分を持つとということを言っとるわけですので、今現在の問題ではありません。

この部分について実証がないということで、非常にご心配があるということで、セミナーのパンフレットを紹介しておきます。

ランディング・ザ・KDVプロジェクト・イン富山・ジャパン、KDV150プラントが設置される予定であると。これはいつ何日ということは、まだ申し上げられない状態ですけども、この部

分においてはドイツのほうに日本の関係者が出向いておるということでありますので、こういう資料を持ち合わせておりますので、後でお見せします。

また、KDVのテストプラントの稼働状況、PRS有機廃棄物リサイクルシステムについて、NHKの富山放送局の報道や運転状況、平成21年12月のKDV低温触媒イオン交換型ディーゼル燃料製造装置の説明会のDVDがあります。これは後刻、提出可能でありますので、ご紹介しておきます。

以上で、研究、検討をお願いを申し上げて一般質問を終わります。

○議長（古畑浩一君）

以上で、甲村議員の質問が終わりました。

関連質問はございませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

関連質問なしと認めます。

暫時休憩をいたします。

再開を10時55分といたします。

〈午前10時44分 休憩〉

〈午前10時55分 開議〉

+

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。〔4番 渡辺重雄君登壇〕

○4番（渡辺重雄君）

清生クラブの渡辺重雄でございます。

それでは、事前に通告をいたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

1、観光政策の基本的な方向性と取り組みの手法について伺います。

今年度は東日本大震災に始まり、長引く不況、高速道の休日ETC割引1,000円の廃止などの影響もあり、観光を取り巻く環境が大変厳しい状況にあります。

しかし、市内におけるその実態については5月の緊急経済調査、6月の上半期景況調査などから結果としての断片的な状況がわかるものの、原因を始め体系的な面での状況をなかなか把握することができません。

その時々々の厳しい状況を早期に打開するには、各種調査に基づく観光客の行動分析や経済波及効

果などを算出し、その結果に基づいた新たな対策が必要と考えます。

さらに、ジオパーク事業を中心とした交流人口の拡大などの、観光政策全体を発展充実させるためには、協働による取り組みを基本にした観光ビジョン、観光白書の整備も当然必要と考えることから、次の点について伺います。

(1) 今年度上半期に見る行政の役割についてであります。

今まで経験をしたことが無いほどの複合的ともいえる厳しい環境の中で、行政にしても何をなすべきか、大きく問われた期間であったと言えるが、どのような対策と対応をされたのか伺います。

(2) 観光イベント等への行政の対応についてであります。

各種団体や民間による交流人口の拡大に結びつくイベント等でも、行政の支援が必要な部分や行政の役割といえる部分もあり、協働による取り組みを期待するが、基本的な考え方を伺います。

(3) 観光客の各種調査、統計の方法についてであります。

各種調査や統計の数値は大変貴重なものだが、活用してこそ次につなぐものであり、その実状はどうか。また国で入込客等の調査方法について新基準を作成しているが、新基準移行と活用などについても伺います。

(4) 観光客の行動分析と経済波及効果についてであります。

とかく観光客数が観光のバロメーターとなっているが、実際は観光客の行動分析と経済波及効果が大変重要なことであることから、これらの算出を随時行い関係業者、団体との情報の共有を図っているか伺います。

(5) 観光ビジョン、観光白書整備の必要についてであります。

今年度上半期の厳しい環境を経験する中で、当市の観光全体の方向性や各機関や業者、市民の役割を整理したビジョンの必要性和政策や実態をまとめた糸魚川版観光白書の作成を必要と考えるが、今後の取り組みを伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、被災地や被災住民に対して配慮をしつつも、当市の安全性を情報発信し、各種イベントを開催してきました。

また、新規体験ツアーや修学旅行の受け入れ相談にも対応してきたところであります。

2点目につきましては、交流人口拡大や経済波及効果を目的とした各種団体及び市民の自主的活動に対して、市も連携して支援してまいりましたが、今後もさらに市民が主体となって活動することを基本に、側面支援を継続してまいります。

3点目につきましては、各種データの管理は大切なものであり、入り込み客数等は各施設の目標数値として使われております。

国における新基準は、市民会館などの大規模集客施設がカウントされる一方、集客が少ない観光施設やイベントが対象外となったことから、県でもしばらくの間では、旧基準を併用して活用することとなっております。

4点目につきましては、定期観光バスやモニターツアーでのアンケート調査により、観光客の行動分析を実施いたしており、その情報は関係機関や受け入れ施設などへ提供し、情報の共有を行っております。

5点目につきましては、観光協会と十分連携を図ることが必要であります。観光協会の3支部の事業や役割について協議をしている段階でもあり、今のところ観光ビジョン等を作成する考えはありません。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

2回目の質問をさせていただきます。

まず、1番目の上半期に見る行政の役割についてであります。今回の震災関連で、交流人口の拡大に力を入れている中で、当市で一番困ったこと、あるいは問題になったことというのは、どんなことでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

お答えいたします。

全国的な観点でもありますけど、やはり誘客というか、お客様の伸びが前半、特に3月の震災以降、非常に少なかったということで、やはり動きが停滞したのではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

4月の建設産業常任委員会では風評被害、自粛ムード、この真ただ中で、また、それから計画停電の動きが出てまいりまして、それらに対処するために糸魚川市を挙げて早急に救済策を講ずること。関係各団体と協力して、推進体制を構築することと、この2点について集約をして、行政に要望をしていたわけでございますが、具体的にその対応というのは、どういう形でされ、どういう成果が上がったか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

残念ながら3月中の催事、イベント、それからいろんな催しについては全部、震災以降、中止にさせていただきました。

4月に入りまして、新年度になりましたので、被災地に配慮しつつ関係団体と個々に話をする中で、できるだけ例年どおり、しっかりと配慮しながら歩み始めようということで意思統一し始めております。その中では例年どおり祭り、それからいろんな春のイベント、そういうものを足元をしっかり見詰めながら、情報発信なり活動していくことが、お互いの相互関係になるということで、予定どおりに展開させていただきました。ただし、結果的には思いのほか、なかなか集客できなかったことは事実だと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

6月8日に経済対策会議を開いたと。それから米田市長は6月の定例会の初日で行政報告の中で、支援策として現行の融資制度の拡大・拡充を発表した。それから、市内へのさらなる誘客拡大を図るために周知、宣伝活動を行っていきたいというふうに述べられておったわけですが、この経済対策会議、さらに融資制度、こういうことについてどの程度、どういう形で行ったか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

金子商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 金子裕彦君登壇〕

○商工農林水産課長（金子裕彦君）

お答えいたします。

融資制度の関係につきましては、緊急補償とあわせて景気対策の特別資金の利用が可能となるように要件の変更をいたしましたほか、借りかえの緩和期間の延長をしたというような取り組みを実施いたしました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

この経済対策会議に関してですけども、酒井部長はその後、今後、支援策の効果を検証し、さらなる情報の共有化を図る必要があることから、状況に応じてこの対策会議を開催したいというふうに述べておるんですが、その後、1回だけじゃなくて2回、3回と開かれたものか、あるいは年内中に開くのか、年度内に開くのか、お考えをお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

○産業部長（酒井良尚君）

6月に開催をいたしました、経済対策会議のその後ということでございます。

その後、各業界団体、あるいは地域の企業の状況を把握する中で、具体的にどのような対応をするかということにつきまして、さまざまな情報を収集をいたしました。また、実際の事例をまず紹介をすることが必要であるということから、先般の建設産業常任委員会でもご報告をいたしましたとおり、市内の景況状況については随時把握をしてきたものでございます。

この後の会議の開催につきましては、また総括的な意味合いで開催をするということも考えられますけれども、現状、今の市内の状況を把握をしてきておりますので、この後、年度末までに開催をするかどうか、また検討をして計画をしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

今、部長がおっしゃいましたように、一堂に会した会議も必要なんですけど、情報の共有というのは、日々重要なことじゃないかと思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

では、少し細かいことになりますが、お聞きしたいと思うんですけども、4月、5月の段階で、宿泊客でありますけれども、実際にどの程度のキャンセルが発生して、それによる影響はどの程度発生したのか、詳しい数字はつかんでおりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

数値的なデータについては、今のところ持ち合わせておりませんが、ほぼ旅館、ホテル等に実際、電話をさせていただいたり問い合わせで調整をとった結果ですけれども、ほとんどゼロに等しいという形で報告を受けております。

すぐさま何とか啓発活動をしっかりしていかなきゃいけないなということで各地域、長野、それから富山方面へ施設めぐり、ないしは情報の提供ということで、職員がすぐ出向いておりますけど、即座な回復は、なかなか難しいというふうな状態でした。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

詳しい数字はつかんでないということになりますと、やはり予約はどうであったか、あるいは昨対どういう状況になっているか、そういう根拠がないと、やはり厳しいというのを実感してないんじゃないかなというふうに私は感じるわけでございます。

交流観光課ではアンケートやデータの分析によって、より効果的な周知、宣伝活動を行い、市内への誘客拡大を図るというふうに答えておったわけでございますが、その根拠たるものが非常に弱い。その時点の言われたアンケートやデータの分析、具体的にどのようなことをやられたのか、お

伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

特に旅行、ないしはツアーの関係でいらっしゃるお客様には、アンケート調査を確実にしております。誘客なんかの一環であります。それからイベント状況時にも可能な範囲で、お客様の意見を聞くような形で対応しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

それと商工団体や観光協会、こちらから陳情とか各種の要請というのは、どの程度あったのかお伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

特に夏のシーズンですね、海水浴客の入り込みを中心に人が来ないと、何とかしてくれということで、非常に現場サイドでの打ち合わせ、あるいは協議が多かったというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

私が聞いている範囲では、まだ具体的な業界からの申し出とか、そういうものがあったわけですので、こういうところできちっとお答えをしていただきたいというふうに思ったんですが、よろしいです。

それからこの4月の時点、今後この地区が風評被害のエリアに入るかどうか、大きな境目であるという見解を申し述べられていたんですが、実際はどうであったのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

日本の国内全体が、そのような感じではなかったかなというふうに思っておりますけども、やはり市民、国民の意識が、この震災後、積極的に外に出かけるという状況が非常に少なくなったのではないかなというふうに思います。当市も十分、観光ないしは流動人口に関しては非常に少なく、影響を受けたものというふうに判断しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

○産業部長（酒井良尚君）

補足をさせていただきます。

風評被害に対してどうかというふうなことにしましては、この大震災の影響が当市の観光、あるいはそれを取り巻く諸所の状況中に、影響が及んでいたかという部分から考えますと、例えば放射性物質の展開によりまして、来場者が例えば海水浴を避けたとか、そういう状況がもしあったとすれば、風評被害ということになるかと思えますけれども、今般の市の調査の中では放射性物質のレベルは、標準的な日常的な範囲ということでございまして、また、そのような情報発信もさせていただいているところであります。

そういったところから考えますと、風評被害というよりは、やはり地震を経験しての国民全体のいわゆる自粛ムード、そういった部分が強く、今回の上半期の観光流動の低迷につながったんじゃないかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

先ほどお伺いしたのは、4月の時点で行政側より、今後この地区が風評被害のエリアに入るかどうか、大きな境目であるというのは、行政側がコメントしてるわけですね。ですから何をもって、境目だというふうにおっしゃったのかというのを伺いをしたいのです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

春の建設産業常任委員会の資料提出の中では、ホテルのキャンセル状況等の把握等、若干させてもらっております。その中では、前年度同期で66%ぐらいという報告がたしかなされております。そういう状況をかながみながら、非常に他の主要施設、フォッサマグナミュージアム等も3月期、4月期に関しては非常に入り込み数が少ないという状況の中では、やはり今後かなりの部分で影響が懸念されるんじゃないかなということで、部長の説明にもありましたけど、直接的な当市における要因はないにしても、人の動き自体がそういう形で非常に、間接的な風評といいますか、そういう部分でのとらえ方をさせていただいて、非常に重要な課題であるなということで話をまとめさせていただいて、報告をさせていただきました。

以上です。

○議長（古畑浩一君）

行政側に申し上げますが、渡辺議員の質問、再三しておりますけども、風評被害での境目というのは、何をもって基準となすのかということについて、全く答えられておりません。議長といたしましては、的確な答弁をするように要求いたします。

暫時休憩いたします。

〈午前 11 時 16 分 休憩〉

〈午前 11 時 18 分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

それでは、休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

若干、先ほどもデータを示させていただきましたけど、常任委員会の中ではホテル等の市内のキャンセル状況が前年度対比について、入り込み数が 66%と、それから市内の主たるフォッサマグナミュージアム等の入り込み客数が前年度対比で 72%と、その時点ではそういうデータが出ております。

これにあわせて、やはり避難されている方を当市も受け入れたわけですが、近県、富山県以南のほうは、あまりふだんと変わらないような状況もありましたので、そういう間接的な放射能風評といいますか、そういうものとあわせて、当市においては非常に深刻な課題だなということで、風評自粛の影響がかなりあるということで、建設産業委員会のほうではまとめさせられて話をしました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4 番（渡辺重雄君）

風評被害というのは今おっしゃられるように、何を根拠にというのは、なかなか難しいことは、これは事実でございます。今回は補償なき風評被害となる公算が、大きいのかどうかということですね。

と申しますのは、8月の国の原子力損害賠償紛争審査会、こちらのほうでは中間指針で、風評被害に関しても対象を明記しとるわけですね。この地域に該当する対象はあるのか、ないのか。それから12月6日、ここでも賠償指針を出しておるんですが、こちらの場合は風評被害に関する記述はないようなんですが、その点については、どんなふうにとらえておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

特に被災地を中心に、観光業を含めて国のほうから一定の基準が示されたようではありますが、新潟県においても、まだそういう話が入ってきておりませんし、多分、国の基準では、なかなか大変な算定になるのではないかなというふうに思われます。当市においても実情は非常に厳しい中で

すけど、今のところは県及び国のほうからは、特段の指示ないしは話は来ておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

中越沖の地震の際は、風評被害の補償というような形で中越沖地震復興対策交付金、これが新潟県の観光協会を経由して、各観光協会に交付されておったわけでございます。ちなみに、私、能生地域のことしが把握はしてないんですけども、当時の能生町観光協会には183万9,000円が支援金として、正式に言うと観光振興事業支援金という名目で風評被害の補償というような形で出てきておったわけでございます。

では市として、この放射線量に関する情報の伝え方なんですけども、まだ現在も続いておりますが、どのような方法でやっておられるか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

情報データについてはホームページでの紹介、並びにチラシ、ビラ等での紹介をさせてもらっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

最新のデータではどんな数値になっているか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

○副市長（本間政一君）

先ほど言いましたようにホームページ、あるいは広報等で周知しておりますが、大きく数字的には出てない、検査数値なしというのが、圧倒的に多いのかなというふうに思っておりますが、若干ですが、数字的には当然ゼロということでないわけで、あることはあるわけですが、安全だということでの範囲内の周知をしているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

なぜ申し上げたかと言うと、私は観光に関連した観点から放射能対策に関して、特に夏場なんですけども、少し踏み込んだ対応をしてほしかったということが頭にあるわけです。

というのは、ことしの夏は太平洋側の海が敬遠された分、日本海側に海水浴客に来ていただいた

わけなんです、やはり来る前にその情報を確認しとるわけですね。電話でダイレクトに旅館、民宿、食堂、浜茶屋、こういったところに放射能は大丈夫ですかというふうな問い合わせがあるんです。大丈夫ですと、ほとんどの方は答えている。今、副市長がおっしゃるような答え方。ところが、その次があるわけです。じゃあ何ベクレルですか、何シーベルトですかと、そういうふうな問い合わせに答えられないんですよ、民宿、旅館、浜茶屋関係者は。それじゃあなた方、それはどういうことですかと。これだけマスコミで、放射能汚染についていろいろ問答がある中でというふうなことで四苦八苦をしたということで、当然困った関係業者は行政にも相談をしていたわけですが、行政のほうからは、ナシのつぶてであったり、ホームページをごらんください、これじゃTPOが全くなっていないと。状況判断を含めた即時対応、何が今問題になって、どういうものを情報の共有をして、対策をしていかなきゃいけないか。この原点が、非常になってないというふうに私は感じたんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

○産業部長（酒井良尚君）

観光に関連する情報提供について、これは夏にも渡辺議員さんから私もいろいろとご指導いただいた部分でございますけれども、やはり新しい情報をすぐに提供していくということ。それから、その提供の仕方において、やはり受け手のほうでさまざまな方がいらっしゃる。その人たちに、あまねくきちんと情報が伝わるようにしなければいけないと、こういうご指摘でありました。

私のほうといたしましても、部内のそれぞれの所管のものとあわせて、新しく把握した情報についてはインターネット、ホームページで掲載するのみでは足りないということから、また、追って改めてチラシ、あるいは周知のルートをつくってきちんと伝える。それから、また追加の調査を行った場合には、また追加の情報をきちんと出していくようにということで、この夏の対応をさせていただいたところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

今回のような経験ですね、あんまり前例がない、行政言葉で言うと前例がありませんと言われるんですが、前例がないのは当たり前なんですね。いわれない前に先々と打てるかという、なかなか打てないと、これはわかります。ただ、要求にもこたえられないというのは、これは不信を買ってしまいますので、現に取り組みの姿勢が問われているというふうに私は感じたわけでございます。

また今月の1日に、市では放射線に関してわかりやすく解説した講習会を開いておりますよね。このような会合にやはり観光業者等も招いて、情報共有をするというふうな対応をしてほしかったんですが、こういう点についてはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

12月1日の放射線の講習会につきましては、広く一般市民の方を対象にということで開催させてもらっています。特に観光業者の方に、声をおかけするというようなことはございませんでしたけども、広く一般的な意味で開催をさせてもらっています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

広報とかいろんな形で周知を図ったんでしょうけども、もう少し横の連携、各課との連携をとりながら、どこで、どういうことで困ってる、どういう情報が必要になっている。こういうものをきちっと連携した中で、こういう業者には特にお願いするなり、呼びかけをしようというぐらいな形が。やっただけではまずいと思いますね。私は観光協会の能生支部に所属しているもんですから、早速、資料をちょうだいして、少なくとも役員には配っていただきたいということでお願いをしています。

それと、やはりこの風評被害をなくすためには、数字に基づいた情報の提供というのは一番ですね。そうしないと説得力がないわけです。ですから放射能に関しては、今のところ結局、行政に頼るしかないんですよ。観光業者というのは、やっぱりじっとお客さんが戻るまで頼るしかない。こういう状況の中で行政の大きな役割というのは、あるということを認識をしていただきたいと、お願いをしたいと思います。

それから観光用のパンフレットやチラシの件ですが、どのようなものが、どのように配布されているか、そしてどのような効果があらわれているのかと。比較的、手広く営業してるところでも、ほとんど行き渡ってないというような現実も耳にするんですが、この点はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

市内の主要施設並びに当該の旅館とかホテル、それから富山、それから近県ですけど長野、主要な道の駅、あるいは観光施設等に全部職員が配布して、年に2回以上歩いています。市内の関連業者の皆さんからは依頼があれば、すぐ届けさせていただくような形で手配しているつもりであります。なお、総合パンフレット、それからナビマップ、それから各施設の重立った施設を紹介したもの、そのようなものを置かせていただいております。

なお、ちなみに総合パンフの数よりも、やはり移動して歩く手段にもよるとは思いますけど、ナビマップが一番今のところ出ております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

作成する前に、いろいろ想定して作成をしているかと思うんですが、何のために作成してるかということですね。末端の業者ではどのようなものがまず発行されているかも知らない。これ部数をどんと欲しいということじゃなくて、少なくとも新しいパンフ、チラシの類が発行されたら、1部ずつでもすぐに関係業者に配布をきちっとすると。基本的なことだと思うんですが、この辺は徹底できますか、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

特に、青海のピアパーク、それからヒスイ王国館、能生ではマリンドリーム能生ということで、主要な施設にはしっかりストック分も含めて手配はしてあります。

なお今後、もし観光協会を中心に、会員の皆様にそういうようなご希望があれば、新しくつくった折とか年に1回、しっかり配布を約束していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

ご希望があればじゃなくして、希望があるなしにかかわらず、きちっと配布をしていただくということを、約束していただきたいと思いますし。

それから、せっかく世界ジオパークに認定されて、地域間競争の中で大きな冠をいただいたわけですが、この冠を上手に活用して戦略が打てるチャンスときだと思うんですが、基本的な体質がこのままですと、生かされないまま進んでいってしまう。この後、新幹線の開業も控えとるわけです。前線で頑張っている観光業者、糸魚川を選んで来ていただく観光客の皆さん、こういう方たちの目線とか温度というものを、きちっと感じ取っていただきたいということを、お願いをしておきたいと思います。

それから、次に2番目の観光イベント等への行政の対応についてお伺いをしたいわけなんです、具体的な事例として、グランフォンド糸魚川について少しお伺いをいたします。

インターネットでグランフォンド糸魚川を検索しますと、ヤフーでは3万4,200件、グーグルでは2万8,500件が検索結果として表示されてくるんですけども、この大会の歴史はご存じのとおりですが、まず、この大会を行政としてどのようにとらえているか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

グランフォンドに関してでありますけども、やはり能生の時代からしっかり定着して運営されております。特に実行委員会形式で開催されておりますけども、特に催事、イベントを行う場合は、主たる団体がやはりにぎわいづくり、地域活性、そういう目標がいろいろあると思いますので、そ

れに基づいてしっかり活動を展開しながら、市はやはりそこでできない情報発信だとか、イメージアップだとか、それから誘客宣伝、これらをしっかり啓発しながら、お互いに連携し合うことが、一番大切であるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

インターネットの書き込みでは、県内で一番楽しいイベントであるというふうに言ってる書き込み等もあって、参加者の評判というのは非常に高いものがあるんですが、この辺のところの感想、どんなふうに感じていらっしゃるか。いわゆる参加者の反応といいますか、こういうものも少なからず感じていらっしゃるかと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

私も個人として、その中に参画しておりますので、私から言うのも非常に申しわけないんですけども、正直なところ非常に注目されておる大会ではないかというふうに思ってます。料金、参加費用ですね、それから一番参加者が喜んでもらえることは、やはり地元の皆さんとの接点といいますか、交流がたくさんあると。食についてもそうですけど、このままの形でぜひしっかり定着を図っていききたいと、そういうふうに思いますし、それなりの支援は続けていききたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

おっしゃるとおりですが、ことは新糸魚川市の歴史と同じ7回を数えておるわけです。10月2日の日曜日に行われたわけですが、700名の募集が1日で1,500名以上の申し込みがあったと。抽せんで1,000名に絞って行われたわけですが、大変盛況であったと。

結果がよければ、すべてそれでいいわけでありますけども、その影の部分で、関係者の並々ならぬ苦労があるわけなんで、民間の大会という視点からではなく、観光、ジオパーク、宿泊といった交流人口の拡大の観点から見た場合でも、もっとやっぱり行政とタイアップすることによって、相乗効果が発揮できると。全国でも一流の大会に成長するというふうに私は思うんですが、大会の実行委員の方たちも、行政とのさらなるタイアップを望んでるんですが、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

○副市長（本間政一君）

このグランフォンドの大会につきましては、毎年、毎年、大変人気が出てきておりまして、多く

の方から参加をいただいています。特に、前日から宿泊をしていただいたり、ルートの中でも、それぞれの地域でいろんな歓迎をしてくれるということでのお客さんがふえておるわけでありまして、やはり行政としても実行委員会任せでなくて、一緒になってやろうということでのお話をさせてもらっておるわけでありまして、すべてこちらに任せられるということは困るわけですが、一緒にいろんな面で、このイベントを盛り上げていこうということでの取り組みを考えておりますので、また、それぞれの実行委員会、あるいは反省会等があり、また、来年の計画に当たっても、しっかり市のほうでも協働でやるように心がけていきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

今、副市長がおっしゃられたとおり、1日で1,500人以上の申し込みがあると。すべての申し込みを受け付けたいところですけども、現状では関係者だけでは大会の運営ができないということなんですね。既に大会をサポートする部分を大勢のボランティアの方からお願いしてるわけですが、これも限界に近いと、限界だと。したがって、継続するためには行政のタイアップが必要だ。

ということかと言うと、接待とかコース整備、さらには宿泊、観光、こういったことは、もう全く関係者は手が入られない状況になってきているということなんで、この辺の行政の関与というのに力を入れていただければ、非常に大会運営がやりやすくなるというふうにお聞きをしておりますので、お願いをしたいと思います。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに私もグランフォンドについては、初回からずっと見させていただいております。非常に市民の皆さん、また、市外の皆様方が、非常に楽しんでいる大きなイベントになりつつあるわけでありまして、行政も今、副市長の言われたように、しっかりとサポートしていかなくちゃいけないんだろうと思っています。

しかし、行政のやれる持ち分、また、行政のやれるポジションというのは、今言われたところの中には、ちょっと入れない部分があるんじゃないのかな。やれる部分というのは、今1,000人から1,500人になったときに何ができるのか。そういったものを、やはりきちっと検証しなくちゃいけないと思いますし、まだまだ私はそういう中で、今言われたものの中においては、行政でなくてもできる部分は、かなりあると思っています。そういったところを、これから我々がその中に一緒に加わりながら、みんなでその辺を検討するべきだと思っています。

しかしスタートは、やはりいろんなエキスパートの人たちが集まってスタートしたわけでございますので、そういった人たちを中心にしながら、いかなくてもはいけないんだろうと思ってるわけがありますので、連携というのはそういうところで、我々はとらさせていただきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

大会の実行委員の方の話では、家族で来られている方もかなりいらっしゃるようで、相当宿泊をされていると。そのほとんどが上越市とか白馬村だというふうにおっしゃっているわけで、その原因として、市内での宿泊に誘導する体制ができてないというようなことなんですね。ですから、残念だけでもしょうがないと。みすみす多くの来訪者を逃している現状、これをやっぱり何とか対応できないもんかと。もう実行委員会の方たちは大会に向けての頭しか、やはりできないということをおっしゃっているわけです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

1つできないというところが問題であるならば、やはりその辺をみんなで検討すればいいんじゃないでしょうか。それができなかつたら行政でという話は、ちょっとできかねる部分がございますので、それはどういう形で打開策ができるのか、問題対策をできるのかというのを検討させていただければ、ありがたいと思っていますし、これは行政だけではなくて、業界の方々もおられるわけでございますし、また、能生地域だけでなく糸魚川地域、青海地域に拡大もいろいろできますし、また、いろいろ交通の手段なんかも考えていければいいわけでございますので、そういったみんなでやはり連携をしていかないと、今イベントをする団体と行政だけで、できるものではなからうかと思うわけでございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

まさしく、このことは協働といいますか、行政と関係者、市民、そういうことだと思うんですが、おっしゃられるとおりだと思いますけども、実行委員の皆さんは雪消えと同時にコースの点検とか整備に当たっているということも聞いております。ほとんどが山手なんですね。日ごろ点検整備がなかなか手が回ってないようなところでございますので、そこを整備するだけでも大変だと。これはほとんどがジオサイトにつながる道路でありますので、本来、大会がなくとも、その道路管理者である市とか県が、点検整備をしなきゃならないようなところもあるわけなんで、今絞って言えば、その辺のところだけでも市のほうから、具体的なところを対応していただければありがたいというような話をされているんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、ポイントを絞っておっしゃられましたとおり、やはりそういうことになれば、当然、市がその中で対応できるわけでありまして、また、そういったところを一気にという長スパンでございまして、そういったところをやはり地元の皆様や、また、それをやっていただけるボランティアの方を募ることも、やはり1つの工夫だろうと思うわけでありまして、そして、ただ一部の関係者だけで悩んでいることではなくて、みんなに投げかけることが大事だろう。

スタートしたときに多くの方々に声をかけて、みんなにやっぱり加わっていただくことが大事だろうと思ってるわけでありまして、直前になって困ったぞと言われても、なかなか即に対応できかねる部分でございまして、そういう実行委員会の中に声かけていただくのも、1つの手だろうと思うわけでありまして、そういう枠を広げるということも、やはりお考えいただければありがたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

今、一番大変なところをご理解をいただいたようでございますので、ぜひともそのようにお願いしたい。先日、実行委員の方たちが大会の反省を行ったときに、来年度も実施したいということで決めたということをお聞きしておりますので、ぜひともよろしくお願いをしたいというふうに思います。

次でございしますが、3の観光客の各種調査、指針、統計の方法ですね。

観光庁で平成21年に、観光入り込み客に関する調査を全国共通に実施したいと、観光入り込み客統計に関する共通基準を設定をしたわけですが、昨年の22年の4月から、順次、共通基準によって調査を実施してるというふうにしておるんですが、まだ当市では、完全にそこへ移行してないと。相当難しいんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

データの取り方の話でありますけど、国のほうからも指示されております。

昨年、暫定的に22年度のデータをその数値に置きかえて、完全発表ではありませんけど数値的にとって、県で集約した経過があります。ただ、新しい基準では年間1万人以上の人が集う、並びに特定月、例えば1カ月の中で5,000人以上が集うというような基準をクリアしないと、新しい基準では算定の枠の中に入っていけません。そうしますと、いわゆる今のお話では都市型ということになってますが、従来の形を地方型とすれば、新潟県みたいにある程度の数をこなしていく中では、非常に人数の把握が読みにくい点もあるということで、この夏以降、県のほうでは従来基準をしっかりと出して併用してやってくれということで、新潟県の場合はどちらかといえば、従来基準を基準にしたいというふうな指示を新たにまた受けておりますので、一応2つを表記しながら、私どもは算定させてもらいたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

ちなみに観光庁では、共通基準による観光入り込み客の統計の分析、活用、これによって観光産業の規模観を総体的に把握する、こういう分析。それからほかと比較して、消費単価で競争優位な層がわかる、こういう分析。さらに入り込み客数と経済効果の関係がわかる分析、こういうことができるんで、やはりこれをきちっと観光入り込み客の統計として確立してほしいというふうなことを言ってるんですが、当局としても、各種の戦略プランを立てるわけですから、これをやっぱり十二分にこういうものを活用した中で、具体的に戦略を立てていかないと、非常にアバウトな形でやられても、なかなかぴしっといかないと思うんですが、再度お願いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

データを活用して、特に次年度に、その活動の中にしっかり反映して、課題を克服していくというのは、確かに大事だと思っております。議員おっしゃるとおりだと思います。

ただ、国からの今の基準は、先ほどお話をさせていただいたとおり、やはり地方において年間1万人以下の小さな施設の入り込み客等は、全部対象外ということになりますので、例えばマリンドリームみたいに年間40万少し、それからフォッサマグナミュージアムですと6万人前後、そういう形で、これが我が糸魚川にとっても一番集客の多い代表的なところであります。そのほかの施設は、やはり1万人以下のところもかなりありますので、そういうデータの取り方が、本来この地域にとってどうなのかというのを、もう1回検証をしなきゃいけないと思いますので、そこら辺を当面は併用しながら、議員おっしゃるとおり、次の段階でしっかりデータを活用できるような方向に、少し考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

政務調査などで観光先進地を何カ所か訪問をさせていただいてるんですけども、この新基準でいう調査というのは、やっぱり既に行ってるわけですね。それによって弱いところ、あるいは力を入れなければならないところ、これが見えてくるわけですね。ここをチェックして政策に生かしているというようなことでありますので。

ことし伺ったところでも、観光カリスマがいる行政だったんですけども、この観光カリスマがいるところほど綿密な調査をして、理にかなった政策を打っているということで、決してアイデアだけではなくて、理にかなった政策につないでいるということからしても、ぜひこういう新基準のいいところはやっぱり分析をして、説得力のある形をとっていただきたいというふうに思います。

それから、4番の観光客の行動分析と経済波及効果についてであります。先ほどの各種調査、

統計のところでも触れさせていただきましたけども、やはりこの政策を検討する上で必要な情報というのは、これ整備されてないと、なかなか政策は打てないんですけども、その辺、観光政策と数値、データとのかかわりについては、どんなふうに政策を考えておられるか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

先ほど若干話をさせていただきました。モニターツアーだとか、一般のツアーですね、可能な限りアンケート等で状況把握をさせてもらっています。

その中では、やはりこの糸魚川の食、それからもう1つは地元の人とのふれあい、特にガイドさんを含めて、この2点が大きく充実度の中で影響する範囲かなというふうに考えております。

そういうものをデータをとりながら、特に権現荘だとかマリンドリームを含めて各施設に、こういう結果だったよということを、口コミではありますけども随時調整をとりながら、できるだけ現場で反映させてもらっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

今お話の中にも出てきましたけども、市では各種のモニターツアーの企画をされている。このモニタリングの結果ですね、どのように公表され生かされているのかということで、何例か教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

特に1つ1つの日帰りツアー、それからバスで行くツアー、いろいろあります。ことしは高浪のほうでクラブツーリズムという方々と、何千名という規模で対応させていただきました。そのときは、やはりアンケート等をとらせていただいておりますけど、それをしっかり把握しながら、特に案内していただけるガイドの皆さんとの調整の中で反省会、あるいは催事が終わったとき、一定のツアーが終われば必ず関係者と反省会をもちますので、その都度、特にエージェントさん経由の添乗員から来たデータ、そういうものを含めましてそれぞれ紹介し合いながら、次のお誘いのときは、間違いについては失敗しないと、あるいは新しい方向を探るといような形で、それぞれ活用しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

ぜひモニターツアーが、本格的な企画のツアーにもっていけるようにしていただきたいと思います。

5番目の観光ビジョン、観光白書整備の必要についてであります。新幹線の開業を間近に控えて、周辺の自治体ではビジョンとか戦略の作成、見直しが急ピッチに行われております。

上越市では商工会議所と上越観光コンベンション協会によって上越市観光【やろっさ！戦略】、ここで現状分析と2015年までの戦略が克明に描き出されております。それから黒部市、ここでは黒部市観光ビジョン策定委員会で、黒部市観光振興計画を策定しておりますね。それから飯山市、こちらはまちづくりデザイン会議で観光を考えて、30を超える具体的なプランが提案をされていると。

当市でもジオパークの戦略プランが作成されているところでありますけども、やはりここはビジョンあつてのプランでなければならないというふうに思いますので、大前提として観光ビジョンというものが、やっぱり必要ではないんかというふうに思うんですが、再度いかがでございますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

将来あるべき姿、ビジョンを描くということは非常に大事なことだと思います。

ただ、現実的には市長の答弁でもあったとおり、今、観光協会が昨年一緒になっていただきました。その中では本部の役割、支部の役割というのを、この1年少しを使って煮詰めてもらうということで今再編しております。

そのようなデータが出てき次第、私としては文字が先に走るより正直なところ、共通意識を持って何をすべきなのかということ、しっかり意識の確認をそれぞれの団体で図ったほうが、まず大事だと思いますので、実動部隊の中でしっかりそれをとらえられるような形で、調整をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

おっしゃられるとおりかもしれませんが、実際になくてもきちっと対応すればいいわけですが、なかなかそれができていないというところに、やっぱり作成しなきゃならんという提言をしとるわけです。

このジオパークの戦略プランを活用するにしても、観光の体系がきちっと整備されてないと動けないわけですね。出たとこ勝負的な動きで終わってしまうという懸念を私はするわけなんで、特に協働といった理念、これが浸透して定着してないと、関係者といいますか、はっきり言って直接利益につながる固まりだけの動きになってしまう。これ大丈夫なんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

観光協会の役員並びに会員さんを含めて、早々自分のことだけに固守して考える方は、多分いらっしやらないだろうというふうに思っております。特に、そのために協会という組織があるわけなんで、渡辺議員が先ほどから協働という話をしておりますけど、やはり協会自身の主体性をしっかり持っていただく中で、何を目的に、どうしていくのかという事業展開が、確実に必要だと思しますので、今後やっぱり短期的な目的、それから中期的な自分たちが描く姿、そういうものをやはり現実的に、しっかりまとめていかなきゃいけないだろうなというふうに思っておりますので、私ども関係者を含めて観光協会が、さらなる強化の中でしっかりお互い連携して、市も加わりながら調整をさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

1例として特産品開発とか糸魚川ブランド、これに関してですけども、このところいろんな動きがありまして、非常に期待をしとるわけなんですけど、位置づけがなかなかはっきりしてないところがあると思うんです。やはりこれはおのおのでつくっていただいたものを、糸魚川全体で協力できる体制、これが必要だと思うんで、こういう形というのは認定をすとか、そういう市民のみんなのものとして発信できるような形をつくっていただきたい。それができるようにすることによって、一般市民の中まで広がっていくんじゃないかというふうに思うんですが、ぜひともこういうまずはビジョン全体をつくれなければ、そういう単位的なもので、ビジョン的な発想でつくっていただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

市といたしましては、交流人口拡大プランから今進めておるわけでございますが、基本的にはいつも我々行政のやるものというのは計画ありきで、なかなか現実的なところにいつてないのではないかとこのところが多く指摘されとったわけでございまして、それではいけないということの中で、今動いてきとるわけであります。

しかし、今、議員ご指摘のように、それらを市民と一体となって、また、市全体となつての方向性というものを見据える中においては少し連携が。連携というのは、またちょっと違うんですが、一体感を持ってないんでないかというのを私も感じてますので、その辺をやはりどのようにインパクトを出していくかということも、大きな事柄だろうと思っております。

観光白書とはちょっと違うかもしれませんが、全体的にやはり北陸新幹線開業を見据えた1つの方向性の中で、一体感を持ってインパクトのある出し方としていくもので、一体感のつながりになるようなものを探していかなきゃいけないだろう、また、それを出さなくちゃいけないだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

そのような私も感じを持っておりますので、ぜひともお願いをしたいと思います。

先ほどのブランド関係に関して言えば、市民に理解を得られるような仕組みをつくっていただければ、位置づけをきちっとしていただければ、だれでも申請ができると、ただし厳しいチェックがあると。そこを通過すれば一過性のものじゃなくて、それぞれの機関で協力して発信して、充実させていくと、そしてさらに成長をさせていくというような形に、つながっていくんじゃないかというふうに思いますので、ぜひその辺のところもお願いをしたいというふうに思います。

それから観光白書の問題も、ちょっと触れさせていただきますと、この観光政策の活動の現状とか対策、展望、これはやっぱり市民に知らせるということも大切なものじゃないかと。いろんなことをやっているんだけど、なかなか市民に伝わっていかない。私が感ずるのは、建設産業常任委員会でもいいことをやっても、なかなか報告書なりで上がってこない。聞くと結構やっておられて、整備をしてるというようなことなんです、やはりまとめ方、皆さんへの公表、発表の仕方、この辺もやっぱりきちっとしていただいて、毎年、市民みんなで観光について確認できるような形をつくっていただきたいと。大それた白書という形でなくても結構ですが、ぜひそのようなものを整備できないものかどうか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

データの管理の話でありますけども、確かにバスツアーを含めて非常に大きなことは動きがあったと思いますし、できるだけ新幹線開業に合わせて定番の商品をつくりたいと。私ども職員一同そういうふうに考えながら、いろんな形でチャレンジさせてもらってきました。

そういう意味では、皆さんにご報告できるデータは十分あるというふうに思います。少なくとも建設常任委員会の中で少し報告できるような形で、資料をまとめさせてもらいたいなというふうに思っておりますし、必要であれば市民への開示を含めて、それなりの調整を図っていくべきだろうなというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

いろいろ申し上げさせていただきましたが、行政もいろんなしがらみの中で一生懸命やっておられることは十分理解しております。

ただ、観光こそは、市民が横を向いてはだめだと思うんですね。そこを調整するのは、行政の大事な役割ではないかなと。いわゆる協働の取り組みですね、これだと思いますので。

最後に、糸魚川市は観光客をやさしく迎えるまちになっているかどうか、これをお伺いしたいと思います。

います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、我々が目指しているのは、まさにそこだろうと思っております。限られた自然の中で、我々は今、交流人口の拡大を目指しておるわけでありますが、人的資源というのは非常に大きいところがあるわけであります。そういうことになりますと、やはりその辺が今まで欠けてたところではなかろうかと思うわけでございまして、それを目指しておるわけでございしますが、これは本当に一朝一夕にはならないところであります。

しかし、確実にふえていることは間違いございません。ガイドの皆様方がふえておることです。ございますし、また、ジオパークの認定の人たちもふえているのも、関心がふえておるわけでございますので、やはり地元の魅力を発信できる人たちがふえているということは、おいでをいただいた方に、それなりのおもてなしや、おこたえできる人たちが、ふえてるということでございますので、それをまだまだ私は多いとは思っておりませんので、まだまだふやしていかなきゃいけないだろうと思っております。それが我々糸魚川市の、これからの大きな観光資源になるんだろうと考えておるわけでございますので、それを目指していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

○議長（古畑浩一君）

渡辺議員。

○4番（渡辺重雄君）

今、市長がおっしゃった取り組みを、ぜひ充実をさせていただきたいと思います。

これで私の質問を終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

昼食時限のため13時まで暫時休憩といたします。

〈午後0時05分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

午前中に引き続き一般質問を行います。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。〔2番 保坂 悟君登壇〕

○2番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき1回目の質問を行います。

1、市内スキー場の教育・福祉観光拠点化について。

新幹線の開業に伴い、交流人口を拡大するために、市内スキー場を産官学が連携する教育・福祉の観光拠点にすべきと考えます。そこで、以下の点を伺います。

- (1) 子どもから障がい者まで、全ての人がスキーを楽しめるバリアフリーのスキー場を整備し、全国発信してはどうか。
- (2) スキー・アウトドアグッズの見本市やプロ選手によるスキー教室など各種イベントを企画支援し、子どもを中心にウィンタースポーツを広める拠点にしてはどうか。
- (3) スキー場を活かした子ども体験合宿プランづくりについて。
 - ① 雪国に住みながら様々な事情で子どもをスキーに連れていけない家庭のために、昼はスキー、夜は勉強という合宿プランはどうか。
 - ② 小規模小学校が多い当市では、見知らぬお友達と仲良くなるコミュニケーション力を育むウィンタースポーツ合宿プランはどうか。
 - ③ オフシーズン、夏場になりますが、防災教育の体験、また間伐体験と間伐材を利用した秘密基地づくりなど特色ある子ども合宿プランはどうか。

2、防災対策について。

(1) 学校の地域防災拠点化について。

- ① 非常用自家発電装置の設置計画はどうか。
- ② 扇風機、石油ストーブ等冷暖房施設の整備計画はどうか。
- ③ 簡易トイレ、マンホールトイレの備蓄計画はどうか。

(2) 防災教育の取り組みについて。

- ① 「HUG（ハグ）」という避難所運営ゲームの導入はどうか。
- ② 障がい者・介護度の高い方とその家族に対する取り組みはどうか。

(3) 沿岸地域の津波避難方法と対応について。

- ① 高台や高層建築物がない場所の避難方法はどうか。
- ② 対策として新幹線の高架橋に避難施設の設置はどうか。
- ③ 歩けない人を運ぶためのリヤカー等の備品整備計画はどうか。

(4) 防災会議等の女性委員の登用について。

- ① 現在の構成はどうか。今後はどうするか。
- ② 防災計画における避難所の整備・運営に女性の視点や子育てニーズが反映されているかどうか。

3、市職員の資質向上について。

山ノ井保育園建設問題や、ジオパーク戦略プランの取り組み方は、市民感覚では理解できないものがあります。職員が業務を進めていく上で、誰のため、何のためといった原点を忘れていているように思われます。そこで、以下の点を伺います。

+

- (1) 山ノ井保育園建設の取り組み方の問題点の分析はどうか。
- (2) ジオパーク戦略プラン取り組み方の問題点の分析はどうか。
- (3) これらの分析を踏まえて、今後の職員教育の改善策はどうか。
- (4) 職員数を計画的に削減していますが、その費用対効果はどうか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

保坂 悟議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、市内のスキー場では既に障害者利用に対応して、一般受け入れやレースも開催しており、さらに今後も周知活動を図ってまいりたいと考えております。

2点目につきましては、既に見本市参加や有名選手の活用を実施いたしており、今後もウィンタースポーツの振興に努めてまいります。

3点目の1つ目につきましては、リフト券無料事業やバス運賃の助成制度を実施いたしており、既に各スキー場で子どもスキー教室やジュニアスキー教室がシリーズで実施されておりますので、ご利用いただきたいと考えております。

2つ目につきましては、現在、市内小学校16校がスキー場を使ってスキー教室を実施、交流いたしております。

3つ目につきましては、ニーズの把握や受け入れ体制の整備も伴うことから、スキー場を活用した体験学習のメニューとして検討してまいります。

2番目の1点目の1つ目につきましては、夜間の緊急避難への初期対応として、市内の全小・中学校へ発電機等を配備済みであり、状況により災害時応援協定に基づき直ちに電源を確保する体制にしていることから、学校施設への自家発電装置の設置は予定いたしておりません。

2つ目及び3つ目の冷暖房器具やトイレにつきましては、現有の配備分のほか協定締結業者により手配することといたしております。

ただし、マンホールトイレにつきましては、設置に適したマンホールの位置等の問題もあるため検討中であります。

2点目の1つ目につきましては、避難所運営の訓練といたして静岡県が作成したものでありますが、このHUGに限らずいろいろな訓練手法があり、昨年、当市においても実施いたしております。今後とも有効な訓練は、積極的に取り入れてまいります。

2つ目につきましては、ケアマネジャーや民生児童委員など、障害者や介護にかかわる方々への出前講座や懇談会なども実施いたしておりますが、周囲の方々の支援が不可欠でありますので、地域ぐるみでの支援体制の整備のためにも、自主防災組織の設立や訓練を実施いたしております。

3点目の1つ目、津波避難につきましては、より高く、より速くを基本に、少しでも速く危険を察知し、避難を始めることが重要であります。

2つ目につきましては、田原議員のご質問にお答えしたとおりであります。

3つ目につきましては、地域の実情により必要数量や配備箇所等が異なるため、自主防災組織補

助金等を活用していただき、地区ごとに避難、支援方法とあわせて整備するよう働きかけております。

4点目の1つ目の防災会議につきましては、35の組織、団体で構成をいたしております。委員は、それぞれの組織、団体からご推薦をいただいておりますが、現在のところは女性の委員はおりません。

2つ目につきましては、今後の地域防災計画見直しの際に、女性の視点も含め各種団体等の意見や提言を踏まえて反映をさせてまいります。

3番目の1点目につきましては、庁内関係課協議を継続し業務に取り組んでおりますが、建築確認済証の交付に至らず、工事着手ができておりません。このため開園予定日がおくれることを保護者会で謝罪と説明をいたしましたが、保護者や議会への説明の順序に問題が残ったと思われます。

今後も状況によりまして、保護者や議会の皆さんに報告をしてまいります。

2点目につきましては、交流人口拡大を目指して絞ったのが戦略プランであります。市民や市内関係団体との協議の中で、特に進め方やまとめ方に課題が残ったと思われます。

今後、提案プランを機軸に事業の実践に向け関係者と連携を図り、効果的な実現に努めてまいります。

3点目につきましては、職員の基本姿勢の再認識が必要と感じており、現在、職員研修に係る全体計画の見直しを進めております。また、各部・課特有の案件につきましては、業務マニュアルやチェックリストの作成の見直しなども含め、さらに職員の資質向上に取り組んでまいります。

4点目につきましては、職員数の削減に伴う17年度と22年度の決算額の比較におきましては、約6%の削減となっております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

まず、スキー場のほうであります。今、ちまたでは各スキー場で放射線の測定等されておりますが、ちなみに糸魚川の両スキー場の放射線の状況というのは、いかになっておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

市内のスキー場の放射線の測定結果ですけれども、12月2日の日にシャルマン火打スキー場を行っております。箇所数にしましては5カ所、センターハウスと各リフト乗り場で行っております。結果につきましては、最小で0.045から0.07ミリシーベルトということで、通常の範囲内です。

それからシーサイドバレースキー場につきましては、12月6日に行っております。これも4カ

所で行っておりまして、これについても0.04から0.09ミリシーベルトということで、通常の範囲であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

今回のスキー場を取り上げた理由としまして、交流人口の拡大のため地元特産品や既存施設を生かすこと。また、特色あるプランが立てやすいこと。雪国糸魚川として冬場の経済活性化策になること。既に糸魚川市が取り組んでいる施策と同じ方向性を持っていることなどを総合的に考え、今、確認させていただきましたが、放射線も問題がないということで、この冬場の活性化に向けて、こういうスキーのあり方というものを少し提案させていただきたいという思いで、今回、質問項目に挙げさせていただきました。

また、80年代のスキー人口というのはほとんど幻として、現在のスキー人口を基本に、もう一歩確かな戦略を立て、市民、行政がこぞってこのスキー場改革を行い、市内外に向けた糸魚川の目玉に成長させたほうが得策であるという意味で、質問項目にさせていただきましたので、その点を含めて質問いたしますので、よろしくお願いいたします。

まず、私はバリアフリーがよいと思っているんですけども、今ほどバリアフリーについて実施されていると言うんですが、少しその辺を詳しくちょっとご紹介いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

先ほどの答弁の中で、私は「ミリシーベルト」と申し上げましたが、「マイクロシーベルト」の間違いでございますので、訂正させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

お答えいたします。

両スキー場とも、予約ないしは該当者を見かけた折には、従業員を含めてスタッフがお迎えをして、それぞれの施設でご利用いただけるような形で対応するというのを確認しております。

なお、シャルマンの場合ですと、トイレがすべて対応型になっておりますし、それから地下からゲレンデに出るまではいす式の階段昇降機が既に設置されておりますので、シャルマンの場合は特に駐車場を含めて、身障者の駐車場もあるということで、そこまでお迎えできるような形で、従業員の訓練をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2 番（保坂 悟君）

私が調べたところで、たまたまこれは福島県のスキー場のことなんですけども、障害者別受け入れ状況ということで、チェアスキー、ハンディスキー、ブラインドといった、その障害者に合わせた対応を一覧にして紹介されているところがあったんですけども、当市はそういった取り組み、要は、こういう状態の障害者を受け入れますよといった、そういった紹介のほうは、どのようになっていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

先般確認しておりますけども、告知では情報公開を含めて、ホームページ等ではどこにも記入はなされておられませんけど、一般的には予約が結構あるらしいんで、4月にはアイスティーカップということで、申告制のレースも健常者を含めて、どんな人でも参加できますという大会を名を打って誘客しておりますので、そういう意味では駐車場へのお手伝いを含めて、スタッフは常時行えるような体制で完備しているというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2 番（保坂 悟君）

今ほどの体制が整っているということであれば、ホームページで紹介してしかるべきというふうに思いますが、その点が少し残念なので、今後取り組みをお願いしたいと思います。

簡単にはバリアフリーと言いましても、いろんな相手方の状況もございますが、施設整備に経費がかかるということは理解しております。ただ、この冬場の産業を継続し、さらに発展させるためには整備支援が必要と思います。

県内外のスキー場で、バリアフリーに取り組んでいるところは、確かに結構あります。しかし、今後の新幹線の開業、また高速道路、日本海が近くにあるというこの糸魚川のような条件は、ほかにあまりないというふうに私は思っております。障害者向けの対応をとっているスキー場がほかにもあって、パラリンピックに出るような競技用のスキーではなくて、だれもが楽しめるといった部分で、このスキー場のソフト面・ハード面を整備していくべきと思うんですが、その点についていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

必要とされる需要の状況もあると思いますけど、今現在、シャルマンは特にレース等でも展開しておりますので、施設の改善等さらに必要であれば、その時々調整しながら進めていくべきだろうと思いますけど、現実には、なかなか一般の人以上に来ていただけるような状況になってない。

確かに議員おっしゃるとおり、ホームページでの紹介はもちろん必要だと思っておりますので、そういうのを含めて、特にソフト部分で従業員指導、これからもしっかりとしていきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

今回、このテーマとしては交流人口拡大という部分で、しかも冬場の産業。できましたら日本国内、国外もあるんですけども、いわゆる雪が降らない地域の自治体、または障害者団体等に対して積極的にアプローチをかけ、こういった体制を組めば来ていただけるかといった、そういう研究するグループ、もしくは研究チームですか、そういうものをつくって対応していくべきというふうに思うんですが、その辺の考え方はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

もちろんウィンタースポーツでも、1つのやはり交流人口拡大に大きく関係してくる部分も多いと思いますので、特にフルシーズン化の中では重要な市の施設だと思います。そういう意味では、今後もしそういうチャンスがあるとすれば、従業員を含めて関係者とそこら辺を十分調整を図って、できるだけ誘客拡大に結びつけられるような工夫をしていきたいというふうに考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

少しトーンが低いような受けとめ方をしたんですけども、積極的に交流人口の拡大という面で努力をしていただきたいということを要望しておきます。

次に、子どもを中心にウィンタースポーツを広める拠点化についてであります。当市では、先ほどもご答弁をいただきましたが、子どもたちのスキー振興とスキー場利用の拡大を目指し、リフト無料券とバス無料券を発行しております。大変すばらしい取り組みだというふうに、私も大変評価しております。0歳から18歳までの一貫教育をうたっている以上、高校生のリフト券補助というのが入ってなかったと思うんですが、その辺を含めていくような考えはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

今現在、小中学生のリフト券の割引きということで補助をしております。高校生については、拡大という意味では課題ではありますが、今のところ実施の予定はございません。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

小中高生のスポーツ振興として、スキーに特化して今回言わせてもらっているんですけども、糸魚川の子どもたちはだれもが、上手、うまいとかではなくてスキー経験があり、いわゆる今度大人になったときに、スキーの経験のない方にスキーの楽しさを話していけるくらいの、そういった人材育成といいますか、スキーのすそ野を広げていくという意味で、ぜひ高校生もリフト券を補助して推進を図っていただきたいと思うんですが、今後の検討となるかと思うんですが、もう一歩ちょっと検討いただきたいと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

高校生につきましては、バスの利用については無料ということしております。リフト券のほうにつきましては先ほどのとおり、検討させていただくということでお願いをいたします。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

検討をお願いいたします。

次に、糸魚川出身で、いわゆる大学生とか専門学生になるんですけども、市外に出ている学生たちにシャルマン、またシーサイドのスキー場割引チケットを送るような形をとって、友人とかにまた糸魚川に来てもらうといった、そういったプランをぜひつくっていただきたいと思うんですね。

今現在、社会的にはバブルのときとは違って、学生もなかなか金銭的に厳しい中での就職活動等をしてるわけなんですけど、やはり学生時代にいい思い出を、この糸魚川でつくっていただきたいということで、市出身の専門学生、大学生、短大生等に市の取り組みとして、割引券というか招待状というか、そういったものを送ってあげて、友人も糸魚川に来ていただくと、そういった何かプランニングをしていって、取り組んでいただきたいと思うんですが、その辺の考えというか、取り組みはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

お答えします。

なかなか対象者を絞り切ったり、そこまでの把握というのは、難しい部分は現実はあるのではな

いかなというふうには少し危惧します。ただ、いろんなやり方があると思いますので、例えばシャルマンの場合ですと曜日によって、近県の人たちが割引を得るとか、それから女性がこの日に来ると、その日は安くなりますとか、いろんな特典をつけてそれぞれ工夫させてもらっています。今後考えられる1つの案として、みんなで協議していきたいなというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

なぜこの学生にというターゲットにしたかといいますと、要は大人になって、また家族を持つようになって、この糸魚川での思い出から、またこの糸魚川を振り向いてもらえるという、そういった意味で、この学生というものをターゲットにした取り組みが大切になるんじゃないかという思いで提案させていただきました。また、今後検討をいただきたいと思います。

次に、スキー場では各種イベントを行っているという話があったんですけども、これはちょっと提案じみた話になるんですが、ちょっとおつき合いいただきたいと思いますが、私はせっかくこのスキー場があることによって、全国でゆるキャラというのが、今ブームになっておるかと思うんですね。そういったところで、ゆるキャラを集めたスキー大会の開催とか、また今、やきそば等であるB級グルメ、そういったものもあえてスキー場に合うB級グルメ大会とか、もうほとんどまねごとではあるんですけども、そういったものをあえて取り組んでいくことによって、また情報発信というか、糸魚川からいろんなことを発信できると思うんですね。

あと1987年11月ですか、「私をスキーに連れてって」という映画が大ヒットいたしました。そのパロディーにはなるんですけども、高齢者向けとか、また障害者向けに、高齢者であれば「わしをスキーに連れてって」みたいな形でDVD化とかをして配信していくと。そういう何か楽しみというか、おもしろみというもので、この糸魚川を知ってもらう。そういった取り組みをしていくべきと思うんですが、その辺の柔軟な考え方といいますか、そういったところはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

確かにスキー人口が非常に脚光を浴びたころに比べれば、なかなか現実には難しい時代になってきたなというふうに思ってます。そういう中で、いろいろ検討してくるんですけども、例えば40分待ってリフトに乗っていた世代というのは、今ははっきり言わせて少し高齢者に近いです。その方を再びスキー場に呼び戻すにはどうするというのを、2、3年前に十分考えてきた経過もあります。

どんなことが1つのヒットを生むかわかりませんので、ゆるキャラ、それから食とのジョイント、そういうものをやはりスキー場を1つの核としながら、誘客に結びつけられるような検討が可能であるか。また、みんなで関係者一同、協議をしまいたいというふうに思ってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

もう1つ、おつき合いいただきたい提案というのか、ありまして、この新幹線開業によって関東圏から乗りかえなしで日本海まで来られるわけですね。この日本海に一番近い駅、日本海に一番近いスキー場を強くアピールして、この日本海の幸とタイアップして、いわゆるスキー場のこの白のイメージがあるんですけども、そこにベニズワイガニを味わえるシャルマンスキー場、また、南蛮エビを味わえるシーサイドスキー場というような特産品とスキー場を絡めた、そういった企画もぜひ打っていただきたいと思いますし、また、今言ったカニもエビもどちらも赤であります。紅白という意味で、非常にめでたい色でありますので、何かの祝い事の企画だとか、そういったものも招聘するような、何かそういうおもしろみある企画を、ぜひ打って出ていただきたい。そこで来てもらった方に、またジオパークを知ってもらおうといった、そういう取り組みがぜひ糸魚川では必要かと思うんですが、その辺、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

確かにスキーの場合、スキー場として考えれば非常にウインタースポーツだけにどうしても目がいきがちだと思います。シーサイドの場合は、特にこのシーズン、タラ汁ということで提供する時間が結構あります。非常に好評で、いつも完売という形になっておりますので、先ほどの話と一緒にですけども、少しやわらかい頭を持って、リンクできるところが市内としてあれば、それもウインタースポーツを売る上での総合力だというふうに思いますので、唯一、天候に左右されるというのが非常に辛いところなんですけども、実施できるかどうかということも含めて、みんなでひとつ検討してまいりたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

ぜひその紅白という意味では結婚式、銀婚式、また、そういうお祝いの希望があったら雪像をつくったり、キャンドルサービスをしたり、場合によっちゃ花火大会をするなど、何かそういうおもしろい取り組みをぜひやっていただきたいと思います。

ちなみにですが、エビに関してはキャラクターがあるんですけども、このズワイガニに対してのキャラクターとか、そういった考えというのは、それは団体とかもあるんでしょうけど、そういう動きというのはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

カニについては、今のところキャラクターの予定は、関係団体を含めて話を聞いておりません。ただ、シャルマンでもテント市、そういう中で地元の皆さんにご協力いただいて、特産品の紹介ということで、メギスのすり身のお汁とか、カニの提供とかいうのを今までやってきました。ただ、それがどこまで、何の目的だということは少し情報を含めて、強く情報発信をしてもいいのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

糸魚川を代表する特産品ということで、そういう動きがあればなと思ったんですが、もしまた機会があればぜひつくるような形で、いわゆる、このゆるキャラブームに乗っていただきたいなという希望です。以上です。

次に、子ども体験合宿についてであります。

先ほどる、いろいろ子どもに関しての説明をいただきました。ただ、私がここで上げているのは、いわゆる合宿ということで宿泊を伴う、または子どもたち同士のこういう交流。今、非常にメンタルな面で、やさしい子どもが大変多くて、なかなか人見知りをする子が多いというような背景もございまして、寝食をともにしてスキーと勉強を学ぶような合宿、そういったプランを言ったつもりなんです、こういった取り組みは現実的な話としては、取り組みづらいものなのかどうか。宿泊施設とか、また民宿とかいろいろあるんでしょうけども、意外に取り組みやすいと私は思ったんですが、この点いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

現在、両スキー場ともスクールを中心にして、子どもたちへのスキーレッスンというのをしております。シーサイドの場合は、大体年間120人から130人の皆さんが、土曜日・日曜日シリーズで、5回とか6回それぞれ入るようになっておりますし、それからシャルマンの場合も、大体ボードを含めると50人ぐらい対象者がいると思います。そのほかに公民館のほうでは、親子スキースクールというものの、類似したものを、毎年2回ほどやっているやに思います。

実例で申しますと、例えば合宿ということになれば勉強も伴うわけなんですけども、シーサイドで夕方、子どもが1日頑張って送りますと、30人乗っていたうちのほとんどが、25分ぐらいで家まで行くわけですけど、安らかに眠ってしまう状況であります。そういう中では、やはり体育の時間はしっかりアウトドアを含めて、大いに雪と戯れていただいて、やはり休養も大事なかなと思いますので、なかなか勉強を含めた合宿というのは、現実的には非常に難しさもあるんじゃないかなと私は思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

フルで一日中、雪で遊べば、確かに疲れるのは当然だと思います。その辺のカリキュラムのつくり方とか、どうにでもなることだと思うので、また、そういう組み立て方がいろいろあるかと思うので、そういう意味でもできれば産官学という表現をして、いわゆる上越教育大学とか、また教員OBとか、子どもたちのスキーばかりではなく、さっきも言ったようにメンタルな面だとか、そういうコミュニケーション力だとか、その中にスキーという楽しみも入れていく、雪と遊ぶということも入れていく。そういうのを総合的に、企画が打てるんじゃないかという意味で言ったつもりなのですが、すみません、再度もう一度お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ただ、教育という観点に立ったり、スポーツといった観点に立つと、ちょっと難しいのかもしれませんが。今、議員ご指摘の分については、違った面でのそういった合宿というところで、メンタル的な部分での事柄だろうと思うわけでございまして、そうなりますとやっぱりインストラクター、また、いろいろな方々の協力を得ないとできないんで、確かに私は今までお聞きする中においては、新たな切り口ということに対しては、本当にいろいろご指摘いただき、また、ご意見いただいたことに対しては感謝申し上げます。

いろんな取り組みをしないと、今は非常に窮地におるわけでございますので、あれはできて、これはできないなんていうことを言ってられないだろうと思っているんで、そういった面で施設利用をしっかりとしていく中で、皆さんに楽しんでいただいたり、喜んでいただける施設にもっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

市長は今の私の提案に対しても、非常にいいほうで受けとめていただけたかなと思っております。なるべく具体的な形になるように願っております。

あともう1点、根知小学校で防災チャレンジプランを今回行っております。そのことを記念してという言い方がいいのかどうかかわからないんですけども、今回の取り組みを根知でやったということもありまして、シーサイドバレースキー場をキーポイントというか、キープレイスというか、そういう場所にして、今度はシャルマンスキー場など、また糸魚川市内全体に防災教育という部分で合宿がいいのか、そういった取り組みをぜひスキー場も兼ねて、何とか企画ができればなというふうに思ったんですが、その辺の考え方というのは、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

○消防長（山口 明君）

防災教育チャレンジプランにまつわった1つの防災教育、子どもたちへのスキー場の活用ということで、現実に根知小学校は本年、シーサイドバレースキー場の宿泊棟で合宿訓練を行い、非常によかったというお話を聞いております。また、防災教育の中で学校のみならず社会教育も含めて、防災の担当としては、子どもたちにそれが広がるように、また、そういう機会があれば、広めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

では、続きまして、防災対策のほうに移らせていただきます。

一くくりに、先ほどの自家発電装置、また、扇風機、石油ストーブという備品関係になるかと思うんですが、答弁の中で、協定により民間のほうから用立てをいただくというような話があるんですけども、実際に災害があった場合に、私ごとになるんですが、平成16年10月23日の中越地震の際、新潟市に私はたまたまおりまして、新潟市から糸魚川へ帰ってくる道すがら、やっぱり明かり全くない状態で信号機もない。本当にこの明かりがないという状態が心理的に不安を広げ、また、どうしても考えることが、悪いほうへ、悪いほうへいってしまうという、そういうものを体験したことがございまして、この自家発電装置の重要性というのは、電気が切れたときにすぐ対応ができるということが非常に大事なもので、そういった意味で各学校への配備と言ったんですが、今現在、すべての学校にこれが配備されてるということではないんですよね。その辺、もうちょっと確認をさせてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

○消防長（山口 明君）

お答えいたします。

市長のほうでお答え申し上げましたように、すべての小中学校に発電機と、それから投光機、あるいは電源コード、そのセットを配備してございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

すみません、私の聞き取り方が間違っておりました。大変失礼いたしました。

そうしますと、じゃあ今度はこの扇風機、石油ストーブについては今現在どのような形で、今後どのような形にしていくのか、再度お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

○消防長（山口 明君）

お答えいたします。

扇風機につきましては、あるいは冷房器具でございますが、そちらのほうは現在のところ配備してございません。なお、それは状況により、また避難所の長期化等々により、そういう協定の中で対応していきましますし、暖房器具、殊に石油ストーブにつきましては、現在備蓄分がございます。それは今のところ19台って数の少ないもんですから、これからまた適宜ふやしていくということと、先ほど申し上げました冷房と一緒に長期化する場合は、当然、応援協定の中で対応していくということで、そういう予定でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

応援協定は大変ありがたい取り組みだと思っております。ただ、今回の東日本大震災のように、規模がやはり大きくなった場合のことを想定しますと、やっぱり各学校といいますか、そういう拠点に配備していくほうが、よろしいんでないかというふうに意見として、できれば要望としては、全配置をお願いしたいなというふうに思っております。

続きまして、HUGについてであります。

今ほども糸魚川市でも取り組まれたというような今ご答弁があったんですけども、それを地域の自主防災組織だとか、できれば公の施設でのHUGの取り組みといった、そういった計画というか、今後の方針はいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

○消防長（山口 明君）

お答えいたします。

当市で昨年8月に実施いたしました避難所の運営訓練ですが、これはHUG、いわゆる避難所運営ゲームではございませんが、同じ中身のものを防衛研究所といいますか、そちらのほうでやっています。災害減災機構というところが、こちらのほうに来てやっていただきました。そういうことで、同じような目的の中で実施しております。

なお、これは私ども職員を対象にしたもので、まずはその基本を学び、これから展開していくということでございますので、先ほど市長答弁のほうでございました、これからまた有効な訓練は積極的に取り入れていき、あるいは展開していくということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

おっしゃるとおりですね。確かに公の機関での取り組みが一番だと思いますので、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

続きまして、防災教育の中での障害者、介護度の高い方というところで触れさせていただきます。

昨年の12月議会一般質問から私、提案しておりますが、救急医療情報キットの配布をということをも早急に実施し、障害者、介護度の高い方はもちろん、ひとり暮らしの高齢者やそれらの家族に向けて、防災教育の一環として取り組むべきだと思っております。

ついせんだって、12月6日付の新潟日報に、胎内市の取り組みが紹介されていました。胎内市では直径5センチ、高さ20センチのプラスチックの筒に、ふたがついているんですけども、その容器に緊急時要支援者情報提供書というものを入れ、冷蔵庫に保管しておくという紹介がされておりました。ぜひ糸魚川市でもプラスチック容器の表面にラベルを張って、冷蔵庫に置くだけのものであります、言ってしまうば。ぜひこういった取り組みをしていただきたいと思うんですが、その辺、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

○消防長（山口 明君）

お答えいたします。

同じような目的として昨年のお話以来、私どものほうでも検討し、たしかカレンダーの裏というもので、それに記載してあるということで、それを福祉のほうでお配りしているというふうに感じておりますし、当然、冷蔵庫キットにつきましても、現在の使用状況を見ながら展開していくということで、そんなふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

救急隊とか、災害時では地域の方になるかと思うんですが、救助に行ったらカレンダーをもらおうというのは、ちょっと理解に苦しむんですけども、やはり冷蔵にあるということがわかっていて、冷蔵庫から取ることによって敏速さというのが出てくると思うんですが、そのカレンダーの裏というのは、どういったことなのか、ちょっと理解に苦しむんですが、説明をお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

○消防長（山口 明君）

お答えいたします。説明が足りずに申しわけございません。

それ専用のやはりカレンダー、裏にそういう書式があって印刷してあるものをお配りしたということで、それに記載するということでもありますので、当然、ご近所の方は、そこにあるよということとはやっぱり知ってなきゃなりませんので、これは冷蔵庫の中も、やはりそういう周知を図ることが必要ということですので、目的は同じかと思いますが、それを図ってご利用いただくという形でございます。それ専用のカレンダーでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

対応がされているということで認識をいたしました。

次に、津波の避難方法であります。

これにつきましては、田原議員のほうからもせんだって質問がされておりますが、やはりいろいろ市民の方とお話する中で、海岸沿線にいる方は、やはりすぐに高台といっても、なかなか近くはない場合は、どうするんだという議論がどうしても出てきます。

これは須沢地区の方からも言われたんですが、目の前にああいいう高架橋があるから、ああいったところに登れたらいいねという話を伺っております。少しでも人命を救おうという気持ちがあれば、田原議員のときにお答えをいただきましたけども、鉄道の取り決め上、入っちゃいけないからだめだとか、そういうことじゃなくて、やはり1つの命を救っていこうという視点に立てば、何かしら打開策というか、中央防災会議に訴えるなり、県の防災会議に訴えるなり、そういった取り組みをして、だめでしたと言うんならわかるんですけども、何かJRさんに聞いて、ちょっとだめでしたという表現だと、沿岸に住んでる方にとっては、少しちょっと納得がいかないのかなというのが私の考えであります。その辺、もう一度取り組みをしていくというような答弁をいただきたいと思うんですが、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

私、前回お答えしたのも今のところは省令で、特に新幹線に関しては線路への立ち入りや、それから施設への立ち入りというのは非常に厳しい状況で、今のそういう枠組みの中ではできない状況ということで、これが今、震災によって、国のほうも道路のあり方とか、道路が避難路にならないのかというような、もう少し上というか国レベルで、そういう国交省レベルではそういうこともありますので、例えばそういう中ではというのは、また1つの方法かと思いますけど、今ある中、今の枠組みでは、できないということでの話をさせてもらったところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

今のところはそうだというのはわかっているんですけども、取り組みとしてどうしていくのかということを聞いているんですね。今後、その働きかけをどうしていくのかと、その辺をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

○消防長（山口 明君）

防災上は、より速く、より高くということは、ご指摘のとおりでございますし、そのように例えば、できるだけまずは速く、高いところにお逃げいただくということの情報連絡を含めて、例えば1分、2分とか、どうしてもその場所が近くにないという場合に避難ビルの指定だとか、そういうものでいろんな方法を考えていって現在やっております。

なお、国のほうでは、津波災害のまちづくり法というのが先日成立いたしました。また、県のほうでも津波対策検討委員会をやっております。そういうことも全体的に含めまして、また、その中で使える、そういうことを大いに積極的にとらえながら、前に進めていきたいというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

糸魚川市にあるそういう高架橋という施設であります、それを利用していくと。1つの命でも救っていくんだという、そういう思いで取り組んでいただきたいと思います。

次に、リヤカーの配備であります、リヤカーにつきましては、当然、人を運ぶという大目的があるんですけども、その災害後の物資の運搬等にも役立つという視点に立てば、できるだけ多く配備する必要があると思うんですが、再度その辺も、もう一度お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

○消防長（山口 明君）

お答えいたします。

リヤカーの利用につきましては、議員ご指摘のとおり非常に有効なものだというふうに考えております。それにつきましては、各自主防災組織の中で備品の補助金を利用して、現在市内では複数の自主防災組織の方々が、既にリヤカーを整備されております。ただ、それぞれの組織の方々の地域の実情によりますので、リヤカーを整備される方、あるいは担架を整備される方、無線機を整備される方、そういうことでなさっておられます。今後もそれにつきましては、いろいろ整備されるよう働きかけてまいります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

わかりました。

続きまして、防災会議の女性委員の登用についてであります。

平成21年6月29日開催の第3回糸魚川市男女共同参画推進委員会というのがございまして、その会議録の中で委員から、防災会議について女性の参画がなく、その原因について質問されております。事務局の答えとしましては、女性の視点が必要として、防災室に検討してほしいと話をしたいという回答が載っておりました。これが平成21年6月29日ですので、その経過と結果と

いいですか、その辺をちょっとお伺いしたいんですが、この辺はいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

○消防長（山口 明君）

お答えいたします。

糸魚川市といたしまして、この防災会議につきましては、各団体の方の代表が出てきていただくようなことになっております。したがって、市長がお答え申し上げましたとおり、現在のところその中に女性はおられないということでございますので、またそういう機会が出てきていただければ、それはそれで結構かというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

糸魚川市の防災会議条例を見させていただきまして、変わってればあれですけど、私が見た時点での話ですけども、糸魚川市の防災会議委員は定数が40人以内となっております、現在は僕の調べでは36人というふうに認識しております。

条例の第3条の第5項の（8）に、前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認め任命する者となっております、単純に4人の枠があいてるかと思うんですね。だから市長権限で女性委員を加え、一層のきめ細やかな対応ができる会議にしていきたいというふうに思うんですが、その辺はいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は女性を拒むものではございませんし、入っていただきたい部分もあるわけであります。

しかし近年の災害の状況を見ますと、非常に多岐に及んだるわけでございます。そして市内だけで完結できるものではございません。市内外のやはりいろんな組織の方々に集まっていただき、市民の安全・安心を確保しなくちゃいけないわけでございますので、そういうことを考えますと、やはりこれからもっとどういうものに及べばいいかということも、今検討しとる最中でございまして、一概に女性だとか男性だとかというとらえ方で今やっておるんでないことを、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

たまたまなんだろうけども、今現在、私が見た中での36人というのが、たまたま男性であっ

て、当然、各団体から女性が出てくれば、それはそれでオーケーなんですけども、現状いないわけです。このいない状況を変えていくという意味で、市長権限で4人の女性メンバーを入れても、私はいいいんではないかなというふうに思うんですけど、その辺の考えはいかがですかということです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々は市民を考えるわけでございまして、男性だけとか女性だけとかをとらえて救助とか避難とか考えるわけではございません。市民一律にやはり安全なり避難を考えなくてはならないわけでございまして、今それを防災に対していろんな方々のご意見なり、また、協力をいただきたいわけでございますので、そういった方々を中心に今入っていただいておりますので、ふえればふえたでもいいわけでございますが、なかなか大勢の方々の時間というのもあるわけでございますので、今、その辺の中で大勢の方々から集まっておりますので、いろんなご意見を賜る中で、今進めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

ちょっと平行線みたいになってきましたので、女性の視点の反映という観点でいきますと、糸魚川市は子ども一貫教育方針の中で、0歳から18歳までの子どもにかかわる取り組みを行っております。その子どもの0歳という部分でいけば妊産婦に対しても配慮した、また避難所の支援というのが、どうしても必要になってくるかと思うんですね。男性が悪いと言ってるんじゃないくて、やはり女性ならではの視点というのが、今回の東日本大震災で女性の視点というのが、なかなか避難所運営で反映されなかった部分が多かったというふうに伺っております。

公明党のほうでも女性議員が中心になって、全国で調査いたしました。約半分の自治体が、女性の委員というのを登用してないというような実態がございます。であるからこそ糸魚川市は、またそういった女性のメンバー、また枠があるわけですから、ぜひ入れてもらいたいということではございました。もしあれば、コメントいただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そのような実例があるということであれば逆にいろんな方々、弱者の皆様方、いろいろな方々のやはり意見をまとめる場を、逆につくればいいのだらうと思っております。それを防災会議の中で一律に論じるというのは、少し私も問題があるのではないかなと思うわけでございまして、その辺を整理しながら進めさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2 番（保坂 悟君）

いろいろ検討していただきたいと思います。

ちょっと角度が違うかもしれませんが、12月6日のニュースで、赤ちゃん用の粉ミルクから、低い値ではあるがセシウムが検出され、大きくニュースに取り上げられました。これは利用者からの連絡で、製造会社が知るところとなりました。子育てをしている中で子どもの将来を考えて、気づかれたケースかと思います。このような子育ての視点を大切にしていきたいと思いますし、

そこで確認なんですけど、前回の9月議会一般質問において、この放射線測定器の貸し出しについて質問させていただきましたが、その回答が、今後、市で購入するサーベイメーターがありますので、ご心配なところがあるという場合には市の職員が行って、一応、測るという体制をとりたいというふうに思っておりますと、渡辺環境生活課長は答えておるんですが、その周知というのは一体どのようになっているのか。子育てをしている方にしてみれば、そういったところも心配でございますので、その辺ちょっと確認させてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

市のほうでサーベイメーターを購入しました。それにつきましては、ご要望があれば市の職員がお伺いするということでお知らせしてあります。

以上でございます。

○2 番（保坂 悟君）

ご要望したい場合はどうですか。

○環境生活課長（渡辺 勇君）

ホームページ等で公表しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2 番（保坂 悟君）

ホームページのみでありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

広報ではお知らせしておりませんでしたので、今後、お知らせしたいというふうに考えておりま

+

す。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

やっぱりどこに視点を置いているかということが、やっぱり問題かと思うんですね。何のための、各議員もいろんな提案されておりますが、何でそれが必要かということを、やっぱり認識が甘いと思うんですね。

私、くやしいなと思ったのは、12月2日ですね、見附市が放射線測定器3台の個人貸し出しをして、県内初というふうにニュースで取り上げられていたんですね。でも、糸魚川市は要望があれば、そこに職員が出向いて一緒に測ってみますよって、そこまで公の場で言っておられるのに、それができてないということがくやしいなと。どこを見てそういうことを打ち出しているのか、その辺、もう一度回答をください。お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

確かに市民の安全確保ということで、市民第一に考えていかなければならないと思っております。

今までの対応につきましては、十分とは言えませんでした。ただ、機械は確かにスイッチを入れて測るというものではございますけれども、やはり取り扱いが必要なことでございますので、当初は、やはり私ども職員と一緒につき添って、測らせていただきたいなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

私は見附市よりも、糸魚川市の取り組みのほうがすばらしいと言ってるんです。職員が立ち会って、一緒に測ってくれるわけですよ。見附市は、ただ機械貸すだけですわ。すばらしい取り組みなのに、周知が不徹底だから利用できないということが、おかしいんじゃないですかと言ってるんです。そこをお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

最初のほうにお答えしましたように、確かに十分な市民周知というのができていなかった、これは反省でございます。先ほど渡辺課長が言いましたように「おしらせばん」、あるいはホームページ、その他いろいろな会合等で、しっかり周知をしていかなければならないというふうに考えております。確かに、周知が十分でなかったことについては、反省点であるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2 番（保坂 悟君）

ぜひ対応をお願いいたします。

続きまして、市職員の資質向上についてであります。

山ノ井保育園のほうであります。保育園の利用者のことを第一に考えたら、平成24年4月開園については、絶対に守るべき最重要ポイントだったと思います。しかし、それを行政はしなかった。その結果として、山ノ井保育園を利用している方や、また、来年から利用希望している方のさまざまな準備を台なしにして、混乱させてしまったと。さらに現園舎とのお別れ会も済んでいる中で、園児たちの気持ちまでも裏切ってしまったと。

日本一の子ども一貫教育方針の思いは、どこへいってしまったんでしょうか。約束を守ること、時間を守ること、間違いをしたら、素直に謝ることを子どもたちに教えるのが大人であります。ましてや教育分野の所管が、なぜこのような結果になってしまったのか。保護者や園児たちにわかるような説明を、ぜひしていただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

結城教育総務課長。〔教育委員会教育総務課長 結城一也君登壇〕

○教育委員会教育総務課長（結城一也君）

お答えいたします。

市長答弁がありましたように、庁内関係各課で協議をしております。業務に取り組んできたわけですが、予想以上にといいますか、設計事務所、それと市ともに木造というふうに考えてはいたんですが、建築主事から混構造と判定され、それによって構造計算適合性判定機関に送られてきて、その対応に時間がかかったということでございます。

議員さん言われますように、ほかにも何点か原因はあったかと思っておりますが、去る11月28日の日に保護者会で説明させていただきまして、その当時はまだできると、1カ月ぐらいおくれるんじゃないかということはありませんでしたが、一応3月31日までにとということで、お願いしておったわけですが、去る12月1日に、設計事務所のほうがこちらのほうにおいでになりまして、ちょっといつになるかわからないということを聞いたもんでございますから、建築主事にも確認に行きまして、去る12月8日の市政運営会議で、木造という形に方針を変更させていただいたところでございます。

なお、保護者の皆さんにつきましては11月9日の日にも、教育長があいさつの中で陳謝、おわびをさせていただいたということでございますので、今後こういうことがないように、木造ということで進めさせていただきながらも、ただ、設計事務所の考え方、それから業者の考え方、それから保護者の皆さん、いろんな意見を十分に参考にさせていただきまして、一日も早い開園を目指していただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

+

保坂議員。

○2 番（保坂 悟君）

1つ確認なんですけども、保護者の対応、陳謝されてるということなんですけど、今後、期間は見通しが立たないということではあるんですけども、今後かかるであろう費用といいますか、お金のほうの面は、どのように予測されておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

結城教育総務課長。〔教育委員会教育総務課長 結城一也君登壇〕

○教育委員会教育総務課長（結城一也君）

お答えいたします。

損害賠償につきましては、まだ設計事務所のほうと金額的に詰めておりません。といいますのは、受注業者からの損害額についての把握もできておりませんし、うちのほうでもいつになるかというのわからないというようなこともございます。それから先般、顧問弁護士のほうにもちょっと助言をいただきに伺いましたところ、非常に立件するのが難しい案件であるというような助言もいただいております。等々から金額につきましては、この場での答弁は控えさせていただきたいと思いますが、設計事務所でも、相応の負担はすべき責任はあるというふうな回答をいただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2 番（保坂 悟君）

時間があれば、ちょっと後でまたお伺いするかと思います。

次に、議会に対しての対応といいますか、8月29日、本会議初日の建築工事の契約の議案説明では、平成24年4月開園に間に合わせるためには、どうしても本日即決でお願いしたいと、結城教育総務課長は説明しております。驚くことは、その日、高澤議員のほうから各種質問の中で、いわゆる懸念していたことが、本当にことごとく現実のものとなっていることであります。

行政は本当に今回のことを全く懸念していなかったのかどうなのかと、私にはちょっと信じがたいんですが、8月29日のときには本当にこれで通るというふうに思っておったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

結城教育総務課長。〔教育委員会教育総務課長 結城一也君登壇〕

○教育委員会教育総務課長（結城一也君）

お答えいたします。

3月31日の日に1回目の申請ということで、木造ということで上越地域振興局のほうに確認申請を出しております。その後5月に、これは混構造ですよという指示をいただいたもんですから、その後、8月までの間に設計事務所のほうで構造計算をしていたと。今回、8月に入りまして確認申請を再提出したということで、この時点では9月中旬には確認済証が受理できるということで、8月29日の日に議決いただいたというものでございます。その当時は、9月の中旬には建築確認

済証が受理できるというふうに、うちのほうでは考えておりました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

私が言いたいのは、この場で高澤議員が、あれほどいわゆる詳しくというか、細かく指摘されておるんですね。それをことごとく要はできますと言って、私ら議会に対しても開園に間に合わせたいという。言葉は悪いですけど、何か開園に間に合わせるためには、この日に通さなきゃいけないと私自身は思いましたよ。でも、本当にそういう状況だったのか。少なくとも高澤議員は指摘されておりますよね。その辺、今の回答でよろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

結城教育総務課長。〔教育委員会教育総務課長 結城一也君登壇〕

○教育委員会教育総務課長（結城一也君）

お答えいたします。

8月29日に議決いただいて、その後、確認済証を受理してから180日の工期という考えでございましたものですから、そうなりますと2月28日、もしくは3月の前後に建築が終了するというふうに考えておりましたので、4月1日のオープンというのは、問題ないというふうな考えでございました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

これもちょっと押し問答になりますので、次に平成22年7月9日に設計契約し、平成22年12月7日に、第1回の上越地域振興局の建築主事と協議しております。それ以降は設計会社と建築主事との間で協議をし、平成23年3月31日に建築確認申請書を提出しています。それは木造で提出し、その後4月26日に木造としては不適合の通知があったわけですが、この建築主事が異動になったために、適合にならなかったということはありませんよね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

結城教育総務課長。〔教育委員会教育総務課長 結城一也君登壇〕

○教育委員会教育総務課長（結城一也君）

お答えいたします。

22年12月7日に、第1回の上越地域振興局の建築主事と協議しており、内容につきましては、今回の新しい園舎の中にめだか園、それから子育て支援センターが入る予定でございます。そちらの用途について建築主事と、保育園という形で認めていかどうかという話し合いをしていたということでもあります。このときに木造か混構造かということについての協議は、されていなかったと

+

いうふうに聞いております、設計事務所のほうからは。そうしますと、建築主事がかわったことによって、木造から混構造に変わったということはございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

すみません。私、なかなか理解ができないものですから。当然なんですね、建築主事がかわろうが、かわるまいが、適合・不適合というのは、結論としては出てくるはずなんですよ。それがこっだけ協議してきて、単純に何で不適合になるのかというのが、単純な素人考えで理解ができないんですね。その辺を、もうちょっとわかりやすく説明いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

結城教育総務課長。〔教育委員会教育総務課長 結城一也君登壇〕

○教育委員会教育総務課長（結城一也君）

お答えいたします。

100%木造のほりだけでということになりますと、建築主事のところでの計算、これはルート1という簡単な計算で済むということで聞いております。ところが、木造と鋼鉄の鋼でつくった混構造ということになりますと、構造計算適合性判定機関というところでの判定が必要だと。そちらのほうはルート1と言いました最初の木造よりも、さらにレベルアップしたルート2という計算でやらなければならないと。本来、設計事務所のほうは木造という考えでずっといたものですから、4月に入って混構造だという指摘をされて、その後、構造計算に入ったわけですが、そちらのほうが非常に手間取ったというのが1点ございます。

それと構造計算適合性判定機関のほうは、4人の判定員がそれぞれやっておりますが、4人の判定委員さん全員を納得させるといいますか、クリアするだけのハードルは非常に高いということで、今後もしつまでかかるか、今の状態ですと、わからないというのを設計事務所のほうから聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

ちょっとまだ、正直、私自身理解できないもので、また別の機会に確認していきたいなと思います。

時間がないので、最後にちょっと飛びますけども、戦略プランに対してなんですけど、今回いろいろあったんですけども、行政改革を進める上で1,300万円の費用をかけて、今回の戦略プランをつくっておるわけなんですけども、この戦略プランに対してできればいいですか、費用対効果が望めるかどうかという部分の見解を、ちょっと確認のためにお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

お答えいたします。

市長、冒頭にお話のとおり、取りまとめ方に少し課題が残ったかなというふうに思ってます。特に、それは市民の方、それから関係団体の方とのコンセンサスを得る形で、どれだけ突っ込みができたかなという部分であります。これから業者から最終的に受けるような形になります。その中でも、ぼつりぼつりと非常に機軸になる部分がありますので、今後はそれをもとに、どれだけ実践活動にちゃんと結びつけるかということが大きな役目だと思います。

やっぱり提案がある以上、それをしっかり受けとめて、今後は実践にしっかり生かされるような形で、展開してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

保坂議員。

○2番（保坂 悟君）

戦略プランに関しましては、前委員長、また現委員長、また各委員からいろんな指摘を受けていく中で、でき上がってきたプランであります。議会から指摘されたことは軽く受け流さないで、素直に受けとめてつくっていただきたいと思います。

以上です。

○議長（古畑浩一君）

保坂議員の質問が終了いたしました。

2時25分まで休憩といたします。

+

〈午後2時13分 休憩〉

〈午後2時25分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、野本信行議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。〔22番 野本信行君登壇〕

○22番（野本信行君）

新政会の野本信行であります。

発言通告書に基づきまして3点について質問を行います。

1、地域福祉・医療対策と健康づくりの推進について。

糸魚川市は、高齢化が他市より進行し、増加基調にあります。高齢者の医療、福祉、介護事業

は極めて重要な施策であり、家族全体の安心・安全の生活体制の確保が強く求められております。
当市の高齢者への介護事業、医療体制、健康づくりの実態について伺います。

- (1) 高齢の要介護者の在宅介護、施設介護の実態について。
- (2) 施設介護への拡充策（含市の支援）について。
- (3) 市内医療体制の実態と地域医療体制の強化策について。
- (4) 高齢者対応の健康づくり体制と実態について。
- (5) 健康づくりセンター「はびねす」の展開について。

2、糸魚川市公共施設全体の耐震化の進捗状況と今後の促進計画について。

市内小中学校、公民館など公共施設の耐震化事業の進捗状況と今後の促進策については、先の東日本大震災以降も各地で度々地震が発生しておりますことから、財政事情、他事業との調整が必要かとは思いますが、市内公共施設の耐震化計画を前倒しする考えについて伺います。

- (1) 市内幼稚園・保育所の現状について。
- (2) 市内小中学校の現状について。
- (3) 市内公民館など公共集会所施設の現状について。
- (4) 財政事情から耐震化事業促進の優先度の見解について。
- (5) 万一避難しなければならない場合の避難コース、場所のマップの作成と全戸配布について。

3、糸魚川市行政運営の体制強化策と財政運営の効率化・健全化の促進策について。

市の行政運営については、職員一人ひとりが向上心を持って責務を果たしていると思いますが、市民からの評価や大小のトラブルが発生している状況からして、庁内全体の行政運営・管理体制の強化策について、また、財政運営についても選択と集中を基本に効率化、健全化を重視していくべきとの観点から具体的な取り組みを伺います。

- (1) 部課長職の部・課内体制の能力や責任体制強化の構築について。
- (2) 今後の財政運営の厳しさを直視した各事業の見直し、拡大推進策について。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

野本議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の1 点目につきましては、2 3 年3 月実績では、要介護、要支援者3 , 0 3 0 人のうち、介護サービスを利用している方が2 , 4 4 9 人、そのうち在宅サービスを利用している方が1 , 7 5 5 人、施設サービスを利用している方が6 9 4 人であります。

2 点目につきましては、特別養護老人ホームの入所申込者数、社会福祉法人の施設整備の意向、及び国県の補助制度等を勘案しながら推進いたしております。

3 点目の地域医療体制につきましては、医療機関の数は医科が2 病院、2 6 診療所で、歯科が2 0 診療所であります。医師数は、医科で6 0 人、歯科で2 4 人であります。また、救急医療体制は糸魚川総合病院が中心となり、よしだ病院と開業医の協力により、3 6 5 日2 4 時間の救急医療体制が確保されております。

地域医療体制の強化策につきましては、従来から実施しております医師や医療従事者の確保、救急医療体制の確保などの事業に加え、新年度に向け新たな看護師確保策、及び高齢者や要介護者のための訪問歯科診療体制の充実を検討いたしております。

4点目につきましては、転倒骨折予防や口腔機能向上など、介護予防事業や運動習慣の定着を図るための地区運動教室や出前講座のほか、骨密度測定や健康相談などを実施いたしております。

5点目につきましては、高齢者向けのマシンも導入したことにより、現状では65歳以上の利用者の約3割は運動を行っております。今後は高齢者向けのメニューもふやすよう、指定管理者と協議をまいります。

2番目の1点目につきましては、昭和56年に以前に建築された幼稚園、保育園は7カ所であります。

2点目につきましては、補強による耐震化は完了しており、現在改築中の小学校2校と中学校1校の建てかえにより、25年度末までに耐震化はすべて完了する予定であります。

3点目につきましては、地区公民館で耐震化が必要な建物24棟のうち23年度までに耐震化が完了するのは5棟であります。今後の計画といたしましては、26年度末を目途に、残りの施設の耐震化を進めてまいります。

4点目につきましては、公共施設は災害時の避難施設となることから、早急な耐震化が必要と考えており、順次耐震化を進めております。

5点目につきましては、国の地震・津波対策に関する専門調査会の結果や、県の被害想定の見直しなどにより地区の皆様、特に自主防災組織の皆様と協力し、マップ等の作成を進めてまいります。

3番目の1点目につきましては、行政経営の観点では、市の新規施策や重要課題などを協議する場として、市政運営会議や部課長会議を設け、情報の共有化を図っております。

このような会議の過程や決定事項についての指示、意識共有を通じて、部課長の資質向上を図るとともに、部・課内における指示命令系統の明確化やチェック体制の強化を図ってまいります。

2点目につきましては、限られた財源の中で最大の効果を発揮するためにも、事務事業評価の評価結果に基づき予算づけを行っております。特に実施計画事業におきましては成果を重視し、計画策定時や予算査定の中で事業の縮小、拡大も含め見直しを図ってまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。

○22番（野本信行君）

これから再質問をさせていただきます。

まず、1点目につきましては、私たち新政会として、毎年、年末に市長要望を提出させていただいておりますけれども、この地域医療対策の推進、あるいは高齢者の要介護者の増加に伴う相談窓口の強化、受け入れ施設への支援の強化、こういった点を具体的をお願いしてきておるところであります。

そこで再度質問をさせていただきながら、今後、一段と対象者がふえますといいでしょうか、そ

ういう状況の中で、本当に安心して年配の皆さん方が当市で生活が営まれるような、そういう環境づくりをぜひお願いをしたいというふうに思います。

先ほど市長のほうから、せっかく数字を言っていたんでありますが、ちょっとメモまで取りきれませんでしたので、いま一度伺いしたいと思います。現在、要介護者の認定別人数につきまして、お聞かせ願いたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

○福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えします。

先ほど市長が要介護認定者3,030人と申し上げました。その内訳でございます。要支援1・2、この方々は割と軽い方でございますが561人、20%弱でございます。要介護1から3の方、中間層ということでございますが1,471名、約半数に至っております、48.5%です。要介護4・5、この方々は重い方ございまして998人、33%でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。

○22番（野本信行君）

この認定度合い別による介護施設入居希望者といいますが、窓口として受け付けしておられる人数、おわかりになりましょうか。そしてトータル何名、現在、市内では介護施設に入りたいという方々が、お待ちになつとるという把握をしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

○福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

入所希望されている方、合計で615名でございます。これは在宅の方々と、そのほかに施設入所、別の施設に入所されたり、病院で入院されたりしてる方々でございますが、この中で在宅待機者、在宅におられて待機されている方246人。この中で要介護度の4・5の方、割と重い方で在宅生活されている方、この方が119名でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。

○22番（野本信行君）

ただいまの回答の中の在宅で4・5認定の方で、約120名おられるというんですが、この方々、現状では直ちに施設に入居できないんでしょうか。もう絶対数が足りないから、もうだめですということなのか、何か手だてはあるものなのか。手だてというのは、例えば市外への施設へ

ご紹介をしていただけたら、そういうものを含めてご答弁いただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

○福祉事務所長（池亀郁雄君）

在宅で介護されていまして、割と重たい方につきましては、日々ご苦勞されておるわけでございます。この方々が入所を一刻も早くしたいという気持ちはあるわけですが、施設の受け入れ体制がまだ整わないということで、大体一般的には施設で2割くらいが、1年間で入れかわりしてるそうでございます。それにしても、なかなか入所に至らないということで、その方々については、もちろん市外等の施設の入所希望を出されたり、あるいはご苦勞されて在宅介護を受けて、日々を過ごしておられるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。

○22番（野本信行君）

ただいまの数字を聞くにつけ、非常に将来に対してご本人はもちろん不安、支えておる家族の方々、これはいろいろ家族構成にもよると思うんですが、ご夫婦の場合、あるいはお子さんが残念ながらどっちか1人しかいない、息子さんとか娘さん1人であるとか、そういういろんな家庭の事情の中での在宅だというふうに推定されるわけでありまして、現状を少しでも打破していくために、市のとれる手だてというものは、現状より全くないんでございましょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

○福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えをいたします。

先ほどの入居待機されておられる方246名のうち、家族構成でございますが、182名の方、いわゆる4分の3でございまして、この方々がひとり暮らしでございまして、家族の介護がなく、1人でおられる方。もちろん、この中には軽い方もおられますけれども、こういうひとり暮らしで介護を受けてない方につきましては、施設介護を要望するということでございますので、一刻も早くこれらの方々を、入所するような形をとらなきゃならん。それには施設整備というものも出てまいりますけれども、そのような実情がございまして。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。

○22番（野本信行君）

つい最近、実は1人の方から、病院から3日のうちに出て行ってほしいと、こういうふうに言われて、その方は家族みんな市外におって、仮に家へ戻るとしても、お1人でお住まいしていかねばならない、そういう非常に過酷な方のケースでお話を聞いたわけでありますけれども、当時では、

病院、ケアマネ、民生委員関係の方々のお話としては、結論的には仕方ない、自宅で頑張ってくださいよと、こういうふうに言われましたという1つの具体的な事例があるわけでありすけども、大変せつない話でございます。

それとそこから一步、それでもいいのかなということとして、市内に幾つかある民間の施設も含めて、何か3カ月ばかりずつ入居してもらっては、ほかの施設ないしは1回家へ戻って、また次のほかの施設へ入ってもらおうという、何かショートステイと言うんですか、そういう何か制度があるや、あるいは、これからそういうものを実施していきますということか、ちょっと正確なところはわかりませんが、その辺の施設を順繰り、順繰りに回って、何とか自宅で無理な方は、そういう形で介護していくというようなお話を聞いたんですが、その辺、正確なところを教えてくださいませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

○福祉事務所長（池亀郁雄君）

施設入所されない方は、在宅生活をされてるわけですが、なかなかサービスといいましても、100%できるわけではございません。ケアマネジャーがケアプランをつくりながら、その人の日々の介護支援をしとるわけですが、なかなかやはりおっしゃるとおり、ショートステイのつなぎとか、あるいはほかの施設を転々とするというようなことを、私らのほうでもお聞きしておりますし、それにしましてもケアプランの組み立て方によりまして、何とか日々を過ごすということで、ケアマネジャーの苦労があるわけですが、それが実態でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。

○22番（野本信行君）

100%対応をできないという現実、これはもうどうしようもない、私どもも認めなければならぬところかというふうに思いますけども、私はこの実情というものが少なくとも減るよりも、さらにふえていくであろうと、こういう心配をする1人であります。何とかひとつ行政側としても、できる最大の手当てを、施設をつくる場合の民間の方々への資金援助等も含めて、最大可能な努力をぜひしていただきたいと、このように思うわけですが、その辺の施設拡充への行政側の際お考えを、大体推定されるけれども、直接きちっとお聞かせ願えればと思いますが、施設の拡充策について今後の市の基本的な姿勢は、このように考えておりますというようなことをお聞かせ願いたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

○福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

その前に、先ほどお答えした中で、施設の待機者560人のうちの182人、32.5%がひと

り暮らしだということでございまして、ちょっと説明が間違っていたかなと思いますので、訂正させていただきます。

それから施設不足の解消策につきましては、来年から始まります第5期の介護保険事業計画づくりを進めております。その中で特別養護老人ホーム、あるいは認知症のグループホーム、それから小規模多機能型という新しいタイプの、地域に密着した小規模多機能型の居宅介護施設整備ということで、施設整備を計画的に進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。

○22番（野本信行君）

施設の拡充支援策とともに、施設に必要とされる有資格者の絶対数、先ほどは医療のほうで市長の答弁にもありましたが、お医者さんはもちろんでありますけども、看護師不足への対応というようなことでのご努力のお話があったわけではありますが、直接、介護施設に携わらなければならない必要な有資格者というものは、何か足らざるところがあると。したがって、施設を拡大したいけども、施設ができて、そこを管理運営し、介護する人がいないというお話も折々聞くんでありますが、その辺の支援策については、どのようにお考えになっておりましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

池亀福祉事務所長。〔福祉事務所長 池亀郁雄君登壇〕

○福祉事務所長（池亀郁雄君）

お答えいたします。

施設での介護職員につきましては、事業者が苦勞されて採用されておるわけですが、市といたしましては、ヘルパーの研修等によりまして育成を支援しておりますし、あるいは施設での介護従事者に支払いする財源といいますか、そういう従事者確保ということでの財政支援を、今までしてきたところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。

○22番（野本信行君）

要介護者の市内におられる実態、それから施設の現状、携わる人たちの絶対数の確保。大変いずれも問題のあるところでございますが、ぜひともひとつ行政の大きな優先課題の1つとしてご認識をいただきながら、全庁挙げて知恵を出し合った取り組みを、ぜひ今後とも推進をしていただきたいというふうに思います。

次、3番目の医療体制の問題でございますが、これは先ほど市長のお話、またこれまでも何人かの方々が質問をされております。現状は十分認識しておるつもりでありますけども、これについても医師の確保、看護師の確保等々につきましては、できるだけ行政努力をしていただきたいと思いますし、今以上に市内開業医の先生方との連携も、ぜひ密にしていきたい。

そのことによって糸病に來られる先生に、制約がいろいろあるかもしれませんが、おれはこの際、

糸魚川市へ行って開業したいと、そういうふうに望むお医者さんが外から来ていただけるような、そういう附帯的な環境整備といいますか、支援対策というか、そういうものもぜひひとつ考え合わせて、医療体制の充実強化にお努めいただきたいというふうに思います。

それから4番目、高齢者の健康づくりでございますが、なかなか私自身そんなに歩いていませんので、歩いていないというのは、お年寄りの方々の健康づくりのための諸活動の取り組み実態を見ていないという意味での、歩いていないんでわからないんでありますが、地域によってはやりたい、行きたいけども、会場が遠いんで行けませんと。

先ほどの答弁では、全市に地域でもやっておりますというお話でありますけども、やはり少なくとも、例えば65歳以上の高齢者を対象にするということになりますれば、できるだけ近いところに会場を設定をしていただいて、何も偉い指導員、先生が来なくても、中央で一緒になって体験、勉強した地域のどなたかが、それこそボランティアでも結構だと思うんですけども、そういう方々が週1回とか月何回とか。例えば青海というならば、各地区公民館、青海の場合は16カ所あります。1カ所、2カ所ということではなくてそういう細分化して、少しでも近いところへ行って気楽に運動して汗をかき、プラス会話をして、いやしを十分味わって帰ると。また、その開催日を待ち焦がれる、楽しみにしとるというようなところまで、お年寄りの健康づくりというものを念頭に置いて、いろいろと対策をしていっていただきたい。

私は何も市職員に、それをすべて求めるつもりはございません。地域でやっていただく、細分化した地域でやっていただく。そういう方向で対処していただければと思うんでありますが、基本的な取り組み姿勢について、どのようにお受けとめでございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

○健康増進課長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

今、議員ご指摘のように高齢者の方、なかなか会場への足が大変だということで、市では運動を取り入れた健康づくりの推進ということで、平成19年から地区運動教室というものを開催しております。これは身近な公民館等の集会施設で、高齢者向けの和室でできる運動教室を開催しております。22年度では今現在ですと17会場で、市内の公民館等で実施しております。

この実施の方法ですが、市の職員、指導者が全部そこに行くわけではございません。その会場の近くの、公民館単位ですが、そこから運動指導員という方を選出していただきまして、その方を市のインストラクターが、教室を運営していただくというレベルまで指導いたしまして、その方々が週1回その会場に足を運んで、高齢者の方と一緒に運動をしとるということでございます。

今17会場ですが、今後この会場をふやすことで、広く地域ぐるみで推進していけるものだというように考えておりますし、また、この教室を19年から始めて大分たちましたが、運動だけでなく、例えばコミュニティの場であったり、あるいは参加者の方が近所の方に、出てこんかねというような声もかけていただいて、高齢者の閉じこもり予防にもなっているという実例が出ております。今後もますますこの地区運動教室を、会場をふやして推進していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。

○22番（野本信行君）

最近は大分変わってきとるのかもしれませんが、例えばついこの間まではお年寄り向きの、健康で元気な人のスポーツといえばゲートボールだと。あのゲートボール、3種類、4種類ぐらいありますけども、とにかく外に出て玉を打ったり云々、それが1つの健康づくりだという線があったと思うんですが、どうしてもそういうものに対応できない方は、やはり室内で軽い体操を、運動をすることによって、少しでも汗が出てくる。それに先ほどの説明にもありましたが、プラスアルファのいい場面が、その限られた時間の中で費やせられると。そういう両面の手だてというものを、やはり構想としては行政のほうでいろいろ発案をしていただいて、それを地域に開示することによって、地域、地域に合ったものを選択をしていただいて、できるだけ1人でも多くのお年寄りが集まって体力づくりに頑張っていくと、そういう環境づくりをぜひ応援と言いましょか支援を、行政として、していただきたいなというふうに思います。

特に青海の場合は、もうあと2年後でしょうか、新しい公民館の組織体制に変わるんでしょう。そうなった場合に、地区に密接した館が今16館あるわけありますので、できればその16館の中で地域の皆さん方がお集まりになって、そういう健康づくりを行うというようなことも1つの構想に入れて、地域と協議をしていっていただければありがたいと、このように思っております。

いずれにしても前段の話と、そうならないようにということで、少しでもみずから努力によって健康を維持していくと。この両面が絶対、私は必要であろうと、このように思っております。

それから、はびねすの関係ですが、オープンから一番近い時点、11月末か10月末か、利用人数、男女別、さらに大きくわけて年代別におわかりになりますれば、お聞かせ願いたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

○健康増進課長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

今現在、10月末現在の数字でございますが、総利用者数が4万8,100人、1日当たりが264人でございます。その内訳でございますが、男女別では、男性が58%、女性が42%、それから年代別ですが、小学校以下が4%、中学生以上40歳未満が23%、40歳以上65歳未満が47%、65歳以上が26%。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。

○22番（野本信行君）

約4万8,000人の利用客数、多いのか少ないのかの判断、尺度は私はよくわかりませんが、

意外と利用されておるのかなというのが1つ。もう1つは、男女を大ざっぱに言えば約半々ぐらいの利用状況だなど。そしてまた年代別にいきますと、ちょっと65歳以上は少ないなというふうに思うんですが、これは先ほども申し上げたとおり、私は場所の問題だと。例えば青海の外れ、能生の外れから、あそこまで自前で行くという方々は、まず無理です。そういう意味では65歳まで、しかも、みずから車の運転ができる方というようなことで約50%ぐらい、半分ぐらいの利用なのかなというふうに思います。

問題は、これをどのようにして、さらに利用拡大をし、ある施設、それからスタッフ、フル動員するような利用状況に盛り上げていくか。これがこれからの担当課の私は1つの大きな使命ではないかというふうに思います。それを受けて公民館なり、関係の各組織を通じてご利用をしていただくということが、必要になってくるんだろうと思います。

1つだけ関連してお聞かせ願いたいと思いますが、市内企業として、あの施設を利用して従業員の健康づくり、そういったものを定期的に利用しておる会社があるんでございましょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊奈健康増進課長。〔健康増進課長 伊奈 晃君登壇〕

○健康増進課長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

現在、市内の1企業から、従業員の健康診断の結果、運動の必要性があるという方に対して、はびねすの利用券をその方に配布して、そこへ行って運動してきなさいという、その取り組みもしております。今後このような取り組みを、我々、指定管理者と連携して、市内の各企業さんにPRに行きたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。

○22番（野本信行君）

繰り返しになるとと思いますが、非常に貴重な施設であるというふうに思っております。あれがますます活発に、盛況に利用され、効果を全市的にあらしめるような、そういうことを念頭に置いて努力を重ねていただきたいというふうに思います。

次、2番目でございますが、一緒にまとめて1番、2番、申しわけございませんが、旧1市2町、青海、糸魚川、能生別に、もう耐震化の対応は終わっております。ないしは、まだ残っております。どちらかを分母に全学校数、上に終わった数、ないしはこれからの数、どちらでもいいんですが、教えていただけませんか、現状として。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎こども課長。〔教育委員会こども課長 山崎光隆君登壇〕

○教育委員会こども課長（山崎光隆君）

私のほうから幼稚園、保育園の状況についてお話をいたします。

まず、糸魚川地域であります、全体で13園ございます。そのうち、まだ耐震が済んでいないところは3園ございます。

続いて、能生地域であります、10園ございます。そのうち耐震がまだ済んでいないのは4園でございます。

それから青海地域であります、4園ございます。4園とも耐震が済んでおります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

結城教育総務課長。〔教育委員会教育総務課長 結城一也君登壇〕

○教育委員会教育総務課長（結城一也君）

小学校についてご説明いたします。

糸魚川地区では10校ございまして、耐震化していませんのが1校でございます。

それから能生地区におかれましては小学校が5校、耐震化してないのが1校ございます。

青海地区は3校のうち、すべて耐震化は終わっております。

中学校でございますが、糸魚川地区、2校のうち1校がまだ耐震化しておりません。

能生地区、それと青海地区については、各1校ずつございますが、すべて耐震化は終わっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。

○22番（野本信行君）

同じく3番目の公民館、あるいは公的集会所と称される、そういう施設についての把握、ごい
ましようか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

田原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 田原秀夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

市の公民館で地域別の状況でございます。

糸魚川地域は10棟のうち4棟が耐震化が不要、あるいは補強工事が済んでおります。今後は6棟を計画をしております。

能生地域は8棟のうち6棟が済んでおりまして、残りは2棟となっております。

青海地域は18棟のうち7棟が済み、残りは11棟でございます。

合計では、今後11棟の建物の耐震化を計画的に進めてまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。

○22番（野本信行君）

市長にお伺いいたしますけども、今お話のように、まだ残されておる箇所がございます。大変これからの財政見通しを考えたときに、厳しい状況は避けられないと思うんですが、しかし、これは地域のコミュニティの大事な大事な場所であると。そういうことを考えますと、私はやはりある意味では優先的に、早く全施設完了するようにしていくべきではないかというふうに思うんですが、その辺の基本姿勢について、市長のご見解をお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおりと受けとめておるわけでございまして、とは申せ、なかなか一気にではできないわけでございますので、年次的に今冒頭でお答えさせていただいたように、平成26年度末までには各施設、完了するよう努めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。

○22番（野本信行君）

あわせまして資金の関係でございますが、各施設によって国、県からのある程度の補助金みたいなものが、期待できるものがあるのかしれませんが、前回の8校を対象にして、4年間で完了せないかんという、かなり悪い建物のところで約60億円の投資が必要で、そのうち40億円が市の合併特例債、一般財源でと、こういうお話を聞いておるわけでありまして、そういうことからいたしましても、かなり残っとるものへの投資も高額になってくるのかなという気がいたしますけども、ぜひともひとつ計画的な手当てをしていただきたいと。同時に、また財政の取り扱いについても十分行政全体を加味をしながら、極端に市債がふえるということのないような、その辺のバランスを考慮した取り組みを、ぜひしていただきたいというふうに思います。

それから5番目のマップの件でございますが、先ほどもお話がございましたんですけども、今、私ここでは、具体的にはどうせえ、こうせえじゃないんですが、少なくとも対地震、対津波、これを合わせた1枚のマップで、しかもわかりやすく逃げられる、待避できる。

実はある集会で、これはお年寄りの集会なんですけども、今までの耐震の避難云々見ても、もう我々はそんなにまちを歩いてないんで、おら地区だって一番短距離で目的地に行くには、どの道を行ってええかわからんと。こういうようなお話もあるくらいなんで、その辺も十分加味した、わかりやすく目的地まで最短で行ける、そういうマップを念頭にしておつくりいただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

山口消防長。〔消防長 山口 明君登壇〕

○消防長（山口 明君）

お答えいたします。

わかりやすいマップづくりということでございますが、これは3月11日の震災以降、6月、あるいは9月の議会でもお答えしておりますが、やはり各地区の皆様方、それぞれの中でつくっていく必要があります。

市長のほうも申し上げましたが、地区の皆さん、特に自主防災組織の方々と一緒になってわかりやすいように、この地区ではこれがいい、あるいはどの方向が危険なんだということを詰めながら、マップの作成を進めていくということで計画しております。

○議長（古畑浩一君）

暫時休憩いたします。

〈午後3時09分 休憩〉

〈午後3時09分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

+

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

野本議員。

○22番（野本信行君）

今のマップの件でございますが、全部行政でやってくださいというつもりは毛頭ございません。例えば今、私が申し上げたような、お年寄りの方が一番近道で、安全な行き方かどうかというのは、自分たちの地区で公民館、あるいは自主防災組織のメンバーで、それは一人一人寄って、赤ペンか何かで加えるということを含めてのわかりやすいマップと、100%行政なりをお願いしますというつもりは毛頭ございませんので、その点も含めていいものをつくってください。

次、3番目にいきますが、実はまことに言いづらいつち言いづらいつちでありますけども、ここ何年かの間に、オーバーに言えば毎年行政の事業推進の中で、大きな問題を残してきております、あるいは発生しております。廃棄物の水銀問題、産業廃棄物の鉛問題、能生の上水道の管理の問題、そしてこのたびの山ノ井保育園の建設中止、延滞の問題。これはまさに不可抗力的な事件じゃない

＋

んですよね。全部、関係職員みずからが携わった事例の結果なんです。

これを私はいつも申し上げますが、民間に置きかえたとするならば、つくっとるものに不良品が出て、それをそのまま出荷して、ユーザーさんに大変迷惑をかけた、こういう事象になります。当然、関係社員はいろんな処分を受けます。しかしと言いましょ、行政の場合には、他市はわかりません、当市の場合におきましてはさほどの、その辺の市民が理解し、納得するような措置を講じてきたのかなと。例えばの話、管理職クラスの方が問題途中で、定年退職でおらなくなった。新しい方が赴任されて、その方が新たなる大変なるご苦勞を強いられるという、そういうこともあまり民間ではございません。

そういう意味で前にも申し上げておりますが、株式会社糸魚川市、米田社長のもとで、何も民間にまねろということは申し上げませんが、そういう人の管理、一人一人の自己責任の果たし方、それがチーム全体、職場全体として、行政力として市民から評価されてくる。そういうことをぜひひとつ焦点にした、成果の上がる私は庁内研修、外部研修を進めていただきたい。これまでも研修の過程では、一般職を中心にしてやれば、せいぜい係長職でしょうか、云々行っておりますが、私はこの際部長さんが、まずすばらしい自治体の管理体制をとっておるところを、ぜひ私は勉強してくるべきだというふうに思います。次は課長さんたち。

どうもこれまでの前例にならう形での処分なり、あるいは対策なり、それにとどまっておるのではないかな、こういう気がしてなりません。ぜひひとつ庁内関係部門で、検討をしていただきたい。いずれまた本件について、その後の成果等については質問をさせていただきたいと思います。

＋

後はたびたび申し上げておりますが、今後の財政運営につきましては、十分慎重な対応をしていただくことをお願いをして、私の質問を終わらせていただきます。

＋

ありがとうございました。

○議長（古畑浩一君）

以上で、野本議員の一般質問が終了いたしました。

暫時休憩とし、再開を３時３０分といたします。

〈午後３時１５分 休憩〉

〈午後３時３０分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

休憩前に引き続き一般質問を行います。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。〔１３番 伊藤文博君登壇〕

○１３番（伊藤文博君）

新政会、伊藤文博です。

本日は、計画策定委託、設計業務委託の適正化について質問いたします。

1年間に多くの委託業務が発注されていますが、委託先の選定については、ジオパーク戦略プラン策定や山ノ井保育園改築の設計委託などで、課題が明らかになってきています。

一定の条件のもとで業者選定を行いますが、受託者の資質に疑問を持たれるケースもあります。私は基本的には、糸魚川市のことをよく知る本市職員や地元の専門業者などが、地元を思う気持ちを土台にして計画の策定や建築設計に当たることが理想であると考えています。これには外部委託の場合であっても市の職員が深くかかわって、設計や計画をつくり上げることを含めてのことです。課題と今後の対応について伺います。

(1) 委託業務に関わる入札制度は適正でしょうか。また、適正に運用されていますか。

(2) 委託業務中間でのチェックや協議の体制は整っていますか。

(3) 専門分野職員の一層のスキルアップが必要なのではないでしょうか。

(4) 委託業務の完成検査方法、評価項目は適正か、また、その結果はその後の業者選定に活かされていますか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、規則等に基づき適正に執行しており、市内業者を優先とする公募条件を原則としておりますが、業務内容によりましては、市外業者へも公募条件を拡大いたしております。また、業者からの提案や技術力などを重視する場合においては、プロポーザル方式により落札者を決定する場合があります。

2点目につきましては、委託期間内においてプランや図面等の確認を求める機会を設けており、内容によっては庁内協議等を行っております。

3点目につきましては、職員の積極的な専門研修への参加を促すとともに、資格取得に係る助成制度やOJTの活用などによりまして、さらなる取り組みを進めていきます。

4点目につきましては、担当課で成果を確認し、完了と認めた業務について、設計図書及び業務仕様書と照合して完成検査を実施しておりますが、成果品の評価までは行っておりません。今後は完成後の成果品の評価方法を、検討していきたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

契約担当課に問いますと、担当課が適切と決めた委託先ということになります。業務の担当課に問いますと、入札システムの問題なのということになる。委託については、全庁的課題であると

+

＋

いう認識に立って質問いたします。

契約担当課だけの問題ではないということですね。最も重要なのは、業務の担当課の対応である。また、行政改革の一環として、職員数の削減も行っていますので、外部委託は必要な対応策だと考えています。したがって、反対するものではありません。あくまでも効率のよい、費用対効果に見合った外部委託でなければならないという観点で質問いたします。

糸魚川市の定めた入札制度により、事業の担当課と契約の担当課の役割分担が明確になっていると思いますが、これはどのようにになっているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

入札の流れにつきましては、伊藤議員もご承知のとおりでありますけれども、契約担当課におきましては入札の部分、入札執行までを担当しております。資格から上がってきました設計図書に基づいて入札手続を行うところまでが、企画財政課管財係で担当しているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

＋

そこで委託契約に関する認識を問いたいと思いますが、委託契約が事業執行という視点で見た場合、建設工事の契約と大きく違う点は何でしょうか。

＋

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

業務委託の場合と請負工事の発注の違いでありますけれども、やはり一番大きく違うのは、評価の部分だろうというふうに思っております。請負工事につきましては、評価基準が明確でありますけれども、いろんな委託がありますけれども、委託の評価の部分につきましては、なかなか難しい分野であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

事業執行という視点で見た場合ということなんですね。これちょっと質問が面倒なんで私の考えを話しますが、これは委託の成果物で、その後の事業が執行されるというところが、工事契約と一番違うところです。工事契約も目的物をつくり上げるという仕事で、大変重要な責任がありますが、委託契約はその成果物を使って、いろいろな事業が何年にもわたって執行されたり、また、その設計どおりに構築された構築物は、その後、何十年も市民生活にかかわっていくということになる、大変重要な意味合いを持っているわけですね。委託契約の重要性について、この点を踏まえて、再

度その重要性についての認識を伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

伊藤議員のご指摘のとおりというふうに思っております。やはり完成にたどり着くまでの中間部分での協議、現在も行っておりますけれども、きちんとした決められた基準というものは、現行の制度の中では設けておりません。ケース・バイ・ケースということもありますけれども、やはり中間部分での十分な協議がされて成果品に導かれるという部分が、大変重要なものであるというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

そこで今の認識に立って、以後の質問をずっとしていきますが、昨年度の実績と今年度の予算ベースで、委託契約の件数と金額というのはどのようになっているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

業務委託全般、しかも50万円以上の部分に限らせていただきますけれども、22年度の実績で78件の5億500万円程度の委託金額となっております。

なお、21年度から23年度までの3カ年平均を見ましても、1カ年当たり80件、契約金額にしますと4億円から5億円の間という実績になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

かなりの件数と金額の委託が行われていますね。委託制度制定について伺います。

これは担当課は企画財政課で、毎年見直しを行っていると思いますが、これだけある件数の委託を行っている各課から、制度上の問題点は上がってきていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

制度上の詳細については、ちょっと今ここで私のほうで答弁できませんけれども、必要であれば後ほどお答えしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

私が今聞いているのは、事業執行している各課から、制度上こういう問題がありますよということが、入札制度を改定していく上で、こういうふうなことをちゃんと考慮してくださいというような問題点がちゃんと上がってきて、検討されるような仕組みができていくかどうかということです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

大変失礼いたしました。

その部分につきましては、もう1年に1回ということじゃなくて、制度改正等が毎年のように行われておりますので、技術担当係長会議ということで逐次開催をしているという状況であります。

追加でありますけども、それを受けまして競争入札選定委員会という、庁内の副市長を委員長とする会議がございます。入札制度を変えていくという部分につきましては、最終的には競争入札選定委員会において、最終決定をするという庁内の仕組みになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

おおよそは国、県の制度に、右に倣えとしてきていますよね。いろいろな状況を見ると、それでは対応できる部分とできない部分がある、糸魚川市独自の事情もあるでしょうから。糸魚川市独自の対応ということも、もう考えていかなければいけない。部分的であっても、国、県の制度にとらわれない検討が必要だと思うんですが、これはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

ご指摘の部分につきましては、やはり国、県のレベルの工事の事業内容とは、また大きさも異にするところもありますので、場合によりましたら市独自の部分というの、今後も出てくるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

入札制度を考えるときには、入札行為そのものには競争性の確保、それから先ほど市長も言いましたが市内業者の優先、それから公平性の確保というような幾つかの条件が考えられます。

この中で例えば市内の業者数の問題だとか、技術力の問題だとかいろいろあるわけですが、優先

順位というのは、どういうふうを考えていくか。これはちょっと漠然とした話ですから、そういうものが何か決まっていて、しっかり明文化されたものがある、それに従ってやっているということであれば、そういう条件的なことをお答えください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

まず、市内業者優先ということは、先ほどの答弁でもありましたように、市内業者をランクづけをする中で、明文化したものを持ち合わせて入札参加をいただいているという状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

さっきからちょっと答弁が不十分なんですけど、今、私に答えたのは、一部しか答えてないですよ。例えば技術力の問題があったり、それから例えばそれに適合する業者が少ないとか、いろんな条件があるというものに対して、きちっと明文化されたものがあるかどうかということも聞いてるわけですから、しっかり答えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

現在のところ、それまでの詳細な積み上げをしたものは持ち合わせておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

あくまでも今回は委託についての質問ですから、工事契約のことを聞いておりませんので、その辺を混同した答弁されないようにお願いします。

委託業務の入札では、最低制限価格が設定されていません。適正な公共投資による地域活性化というのは、事業の大きな付加価値の1つである。適正な価格での発注も課題となります。しかし、3分の1、4分の1の価格でも落札される。委託業務の多くは、人件費がその大勢を占めます。要するに、かける手間に対する金額設定となっているものを、3分の1、4分の1の手間で必要な成果を上げさせることを担保するチェックシステムとセットになった入札の仕組みができているかということが、適正な事業執行上、不可欠となると考えますね。

担当各課において、そのような契約額で当初の目的を達することが可能な体制が確保できているかということについて聞きたいんですが、担当課のほうから答えてもらってもいいですし、部長でもいいです、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務部長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

委託業務の関係で最低制限価格が、今現在、設けられてはいないのではないかというお話でございました。委託業務というのは伊藤議員がおっしゃられるように、ほとんどが人件費が占める割合が多いというふうに思っております。我々としては、とにかく安いお金で、いいものを成果品として上げていただきたいという考えできておるわけでございますけれども、今回の事案を考えますと、最低制限価格が必要ではないかという部分で、内部では少しその部分を来年度に向けて検討したいというふうに考えております。いずれにしても我々として、効率のよいお金の使い方をしたいというのが、今までの考え方でございました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

今の効率のよいお金の使い方という中には、当然、費用対効果、当初の目的を達すると、それよりも高いレベルでということを含んでいるわけですね。

例えば、都市整備課長に聞きますが、建築設計で4分の1の価格で建築設計を入札されたとします。そうすると当たり前に考えれば、4分の1の手間しかかけられない。それをじゃあ中間のチェックも含めて、しっかりと庁内の担当で完全に高いレベルでの成果品を納めさせることを担保できるかどうか、お考えをお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

特に、建築のほうの委託業務については建築士が多くおりますので、うちの課へまた業務の担当課のほうから委託を受けて、そこでチェックなり、それから業務の推移を見守るという中では、中にはやっぱり年間に何件か3分の1なり、それから半分とかというような落札価格もあるし、この辺については、これで過去にはできたものもあります。

それは例えば多くの件数をこなす中で、過去の例をそのまま引っ張りだしたり、それから利用できて計算結果に、それから設計に反映できるものもあります。ただ、一概にそれだけではなくて、やっぱりそのことによって今まで全く支障がなかったと言われると、いや、全く支障がなかったことはありませんと言い切れないのが実情でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

やっぱりそこだと思うんですよね。例えば計画作成であっても、ほかで同じような計画を持って

きてると。多分職員がつくってもそうだ、どこかのやつを持ってきて、焼き直ししちゃうというようなことの中で。ほかで一度やったものをちょっと手を加えて、もう成果品って納められるという考え方の中で、3分の1の価格で入札するというようなケースも逆にあるということも言えると思いますね。

そうすると糸魚川市が果たして求めているものが、そこできちっと納めてもらうことができるかと。これはまた後でちょっと、中間段階で話をしますが、委託するか、内部作成かの判断基準というのは、明確になっているかどうかということなのですが、安易に委託に持ち込まない。しかし、委託をさせるのであれば、効果的にやらなきゃいけないということの中で、先ほど言いましたが、人員削減をカバーするためにも委託業務は必要なわけですが、これはある一定の基準に基づいて委託するかどうか、内部でやるかということを決めていかなきゃいけない。今は多分、慣例に従ってやっているんだと思うんですね。

今回、山ノ井保育園の問題があってから、工事の発注前のチェックリストを作成して、発注の条件を明らかにすることになったということですね。委託についてもやはり何か委託の条件というものを、どの程度のものがあるのかわかりませんが、チェックリスト的なものでしっかりチェックをして、委託の可否を判断していくというようなことが、各課で行われているということであれば、それは当然、契約担当課でも、同じものでチェックするというような仕組みが必要だと思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

○副市長（本間政一君）

伊藤議員から委託のことについてる言われておりますが、やはり委託の業務自体は、市の職員ができるものは、当然市でやるわけですが、それらのできない、範囲を超えたもの、あるいは規模の大きいもの、新たな計画等は事業計画、あるいは測量委託とか建築、そういうものを主に出してやるわけですよ。

やはりその前段の段階で、一番最初は査定の段階で委託にするのか、自分でやるのか、まず決めるわけですが、委託でやるということが決まれば、それらを所管課でどういう方法でやるかということを出してきて、入札の中では競争入札選定委員会の中で、それらをチェックするわけですが、今、議員が言われましたように、やはり委託の場合はそのときのもののじゃなくて、ずっと長くいろんな経過を見ていかなきゃならんということでは、やはり入札した後はどうやってかわっていくか、あるいはそれまでの間で、どういうふうなチェックをしたかということが、大切なんだろうと思っておりますので、今の伊藤議員が言われましたようなことについては、今、一般的にはこういうものはもう委託だという、事務的に流しているところが多くあるんだろうと思っておりますので、このことを契機としまして、いろんなことから検討しなきゃならんというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

委託先の選定については、今までの慣例で行ってきたんですが、なぜ問題が起きたかということについて、ここで1回立ちどまって分析してみる必要がある。対応について検討していかなくちゃいけないことになりますね。環境の変化とともに手法の見直しや、変更して確立していくということが必要になってくるだろうと。

今、副市長が言われましたが、次、(2)のところで中間でのチェックや協議体制は整っているかということなんですけど、ある意味、きょうの質問の最も大事なところは、ここなんですけど、委託した場合の中間時点での担当部署のかかわり合い方として、外部委託の場合であっても糸魚川市の担当者が、そこに深くかかわっていくということが大切である。

相手は、それぞれの部門の専門家ですが、市の担当課の職員も本来そうであるべきです。業務量の問題とかいろんなことで外部委託して、相手が専門家だからといって、それは大抵、市の職員と比べて、そう大したことないんだという感じを私はしてるんですが、市の職員側は、かえって地元糸魚川市のことに精通しているプロであるということを忘れずに、いろんな段階のチェックをしていかなくちゃいけないと思うんです。チェックのありようが、今までとちょっと変わっていかなければいけない。

できれば両方で並行協議をしていく、そのことについてですね。そして委託先で検討されたものと、それから庁内での検討の結果と、これは定期的な協議の場ということだけではなくて、本当に顔を合わせて、そのことについてディスカッションしながら、物をつくり上げていくという場が必要になってくる。会議的にやることじゃなくて、もっとお互いに両方で協働してつくり上げるというような場を設定していけば、委託先の力量だけに左右されないで済むというふうに思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

○副市長（本間政一君）

今回はそれぞれの議員から、いろいろご指摘を受けておりますが、やはり発注した後に、それぞれプロポーザル方式、あるいは関係地域の方にいろんな情報を聞く中で、一定の平面図、立面図等が出てきたわけですが、それらの要所、要所では、やはりしっかり議論し、市の考え方、あるいは設計者等の意見をよくキャッチボールするというのが、やっぱり重点であったんだろうと思っています。

そこら辺を任せたところに、やっぱり委託をしたところから、しっかりしたものが出るというような考え方のもとで進めたことが、ここ長期間、長くなったんだろうと思っていますので、今後はそういうことがないように、やっぱり委託したら定期的に、あるいは要所、要所のときに、しっかり議論するような体制、あるいはそういうやり方等の話を、また競争入札選定委員会の中でも、詰めさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

でき上がったものをチェックをするということになると、立案者がかけた労力に近いものがやっぱり必要になるんですね。したがって、計画や建築設計の内容を担当者がつぶさにチェックすることは、実際、業務上は不可能に近い。だから専門家がつくり上げたものだからということの中で、ある程度、承知してしまうというようなことがあるということだと思うんですね。しかし、チェックしなければならないという現実、これは動かないわけですよ。だからもらったものをチェックするんじゃなくて、中間段階で一定の時間をかけて、内容をつぶさに検討し合うというような段階が必要になると。

先ほど副市長も、要所、要所で議論が必要だったんじゃないかということ言われてますが、例えばジオパーク戦略プランにしても、かなりの回数の協議がされていると思うんですね。ところが、その協議のあり方が、会議ということではかかないと、多分ね。お互いにディスカッションして、そこで共同で何かをつくり上げていくという形にはなかなかない。それは委託という業務の性格上、そうなるわけですよ。委託先の独自性、色を出してもらいたい、いいものを出してもらいたいということになったら。そこが今回、私が感じている一番大きなポイントでして、先ほども言いましたけど、これができれば、契約時に委託先の能力を完全に見抜くことは、これは難しいですから、そこで出た誤差、かけ違いみたいなものを解消できるチャンスになると思うんですね。そここの考え方を、私が言ってる単なる協議ではなくて、お互いにつくり上げていく作業というようなところの考え方はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

○副市長（本間政一君）

伊藤議員がおっしゃってるとおりだと思ってます。今回の中でも平面図が出てきたときに、やはり設計者の意向、あるいは地域の中で協議した形で出てきたわけですので、そこら辺は第1回の中でしっかりしなかったことが、建築のほうに後々響いていったのかなと思ってますので、やっぱりそこら辺では発注者として、しっかりした考え方を言うときは言わなければ、こういうことになるのかなというふうに思っていますので、そういうことも踏まえながら、今後まとめていきたいというふうに思ってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

中間時点でのそういうディスカッションと、別な意味では簡単な作業でできていくチェックをしていかなきゃいけないということもあるんですね。同じチェックするにしても、チェックシステムを構築すべきだという話は、去年の12月議会でも提言させてもらっていて、チェックシステムをきちんとせよということなんで、その辺につきましても検討させてもらうということ、織田部長はそのとき言ってます。

チェックシステムといっても、私が言っているのは難しいことじゃなくて、例えば何々計画について、この段階とこの段階で打ち合わせをするというようなことを、計画的に進めていかれるため

のチェックシートを、それぞれの委託ごとにつくっていくということになるんですが、その後、このことについては検討されたかどうか、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務部長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

今、チェックシステムの確立、前回、昨年１２月に織田部長が答えたということでございますが、そこまでの確立までは至っておりませんが、事務上の手続的なもののチェック関係は、少しずつ進めているというのが現状でございます。また伊藤議員のおっしゃられる確実なチェックシステムが確立されたかという、まだそこまでは至っていないということで、ご理解をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○１３番（伊藤文博君）

検討するは、やらんということだというような話もありますけど、それじゃ困るんで、しっかり検討してくださいね。今回は、また当然検討しなきゃいけない機会だと思います。

内部監査で、外部委託の必要性和結果についてチェックをすることも必要です。これも去年の１２月に言ってるんですね。同じく来年の内部監査のときには、外部委託した成果品等について、きちんとチェックを内部監査でやろうということで考えておりますと、これも織田部長は答えています。これはどのようにされたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務部長（田鹿茂樹君）

内部監査の部分につきましては、今現在実施をしております。ただ、今の成果品のそのチェックまで、確実にやっているかどうかは別としまして、そういうものは意識した中で、内部監査は実施させていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○１３番（伊藤文博君）

多分その部分についても十分ではないんだろうという気がしますね。また見直しをしてもらいたいと思います。

一般質問初日の斉藤議員への答弁を聞いていても、ミス防止のための内部監査というような答弁をされていますが、これは内部監査の意義をちゃんと理解できていません、その答弁では。内部監査は、ミスを防止するのはもちろんですが、業務全体の監査を行うことによって、より効率的な事

務事業執行を目指すための仕組みであって、何重にもなったPDCAサイクルの多重サイクルの中の一番上に位置するのは、市長による見直しですが、その次に位置する重要な見直しの仕組みであります。庁内の業務全体すべてを、システムから運用、結果までをチェックし、改善するためのものなんですね。そういう観点で、内部監査についての考え方をお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務部長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

内部監査につきましては、取り組んだまず最初の発端は、職員のミスを何とか防止したいというのが最初の発端でございました。当然それをもとにしながら3年目になっておりますが、動いておるわけでありましたが、今、伊藤議員のおっしゃられるような部分も、今後の内部監査の視点の中に当然取り入れて、もう少し内部監査の内容を充実してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

中間段階での理事者への報告と協議が必要だということについて聞きます。

これは私も質問内容がこういうことなんで、総務部のほうで主体に答えていますが、担当課全体の問題ですから、そういうふうにとらえていてもらいたいんですが、成果品の段階で理事者への報告では、これはもう遅いですね。受け取ってしまった状態になっているということですから、理事者に報告するのも受け取らない前、当然検討されている段階で、再修正の効くところでやらなきゃいけないというふうに思います。

その観点で見たときにジオパーク戦略プランを見ると、過去の私の一般質問の質疑応答の中で、市長が明言していた戦略には核が必要であると。核は断層とヒスイだというふうに明言されておりました。しかし、このジオパーク戦略プラン、ここにありますが、この中には一切出てこないですね。ということは中間段階の協議がどうなっていたのかということなんです。この経過をお答えしていただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

お答えいたします。

議員さんお話のとおり、戦略プラン最初の立案のときから核は何になるということで、私のほうでもヒスイと断層という話はさせていただきました。今回、戦略プランについては非常に多面的な少し見方をして、大きく2つに分けております。1つは、来訪者の誘致並びに誘客拡大ということと、もう1つは、受け入れの拡充です。そういう2つの中で、ひとつ話をまとめてあります。

確かに、これだという大きな動きではヒスイと断層については述べておりません。ただ、いろん

な角度から検証する中で、特に受け入れ体制の充実ということで、私どもが単刀直入に見てみると、代表される施設としてはヒスイに関してはフォッサマグナミュージアムとヒスイのもとである小滝のヒスイ峡ではないかなというふうに思いますし、もう1つは、やはり今度は断層ということと言えますと、フォッサマグナパークが代表されるのではないかなというふうに思います。どちらも情報発信機能、あるいは案内機能の充実として、具体策としては、フォッサマグナミュージアムの拡充ということで盛ってありますし、もう1つは、ジオパーク資源の活用という中には、フォッサマグナパークの見せ方、それから整備の方法というものを、少し具体的に提示をさせてもらっています。完全にはないわけではなくて、そこら辺は少し押さえながら提案させてもらってあるつもりでありますので、ご理解いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

理解できませんよ。戦略の核と言って、それは外側から見た視点の中で言ってるんだ。今、戦略プランの中身を、ここで論ずるつもりはないんです。

要するに、市長があれだけ明確に言われたことがプランの中に明示されていないくて、読んだ人がイメージできないようなものになっているということは、さっきから言ってる中間時点の協議が、不十分であるということのあかしですよ。だから多分20回以上の会議をされたと思うんですね。だからやはりその中で会議のあり方、要するにお互いに一緒になってつくり上げていくという部分が、いかに重要かということが、ここにあらわれているというふうに私は思っているんですけど、言い逃れしないで、すばっと答えてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

○交流観光課長（滝川一夫君）

打ち合わせの内容等に触れる部分が多いと思います。私が今ここで見て話しているのは、ジオパーク戦略プランの中で活字としてまとめて写真も添付してあるんです。ですから最低限は表示させてもらっております。

先ほどの話から引き継ぎますが、ことしの最初です、皆さんを含めて非常に多くの方からご指導や指摘をいただきました。これではいかんなということで、やはり中身のあるものをしっかり受けなきゃならんという担当課の立場であります。そのような背景から私どもは9月の終わりまでに22回、打ち合わせで協議させてもらっております。これは多いか少ないかということでありまして、密度に関しては半日以上、約1日かけた部分もあります。できるだけ発注者の思いを業者に理解していただく中で、やはり情報発信をしっかりしていかなきゃいけないと思いますので、そういう意味では、どれだけ私ども市民として、この糸魚川市を訴えるかという部分があります。それはやっぱり請負業者としっかり協議する中で、そこら辺をしっかりとまとめていくのが大事だということには思っております。全部が思いどおりいったかといえば、それはまだまだ不十分な部分があると思います。今後の課題もあると思いますし、精いっぱいやらせてもらった結果が、やっぱり

今の時点であるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

私が今言ってるのは、中間段階での理事者への報告というところと協議というところですね。市長があくまでもこの議場で明言した内容が、それも核だと言っていたことが生きていないということ自体が、その担当部署と協議の話だけをしてるわけじゃないんですよ。理事者を交えたところで、やはり議場での答弁の重要性を考えたときに、やはりそこがしっかりしてないということを言ってるわけで、答弁がかみ合わないんでいいですわ。

成果品について、事業を実施した段階での評価も必要だということなんですが、これはやってみただけど、どうも不十分な計画だったとすると。その評価が外部委託先への評価になって、次に生きてきます。または、自分たちのノウハウに生きてくるといえるものがあると思うんですね。この点について、成果品を事業執行してみた上での評価ということについては、各担当部署でやられているんでしょうか。

○議長（古畑浩一君）

答弁するように願います。

○13番（伊藤文博君）

代表して部長なり。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務部長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

担当部署ということでございますが、総枠でお答えをさせていただきます。

基本的には成果品を、それを使っていろいろな業務をやるわけでございますので、担当部署は当然のことながら、すべて100%成果品が満足がいくかどうかは別としまして、チェックをしたり評価をしておるのが現状でございます。その後、伊藤議員がおっしゃられたように、次のまた委託をする場合の評価の部分に加えていっているという、要は経験を足し算しているというのが現状だと思います。細かいところについては、それぞれの担当課は、チェックをしているというふうに理解をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

当然、事業執行すれば、そのことに対する評価というか、感覚的なものは出てきますけど、それは評価システムとして、しっかり構築されてるということですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

○議長（古畑浩一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

先ほど申しましたように、今、委託業務の中では、しっかりとした評価システムは、現在の制度の中ではつくり上げていないという状況です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

そこでわかるのが、成果物を引き取るときの評価と、それから事業執行したときの評価というのが、両方必要だということになってきますね。それが不十分だったときに、今回の山ノ井保育園のように瑕疵担保責任を問うことができるのかということも含めて、契約のあり方までさかのぼって、検討しなければいけないということになると思いますね。

ジオパーク戦略プランにしても山ノ井保育園にしても、委託先を信用して任せたらうまいこといかないと、これは裏切られたということで同情はしますが、それが現実なわけですよ。そのことを早く認識して、検討して、対応することが必要になるということですね。

ですから評価の仕組みをつくり、そしてそのことが、後に生きていくような形をつくっていかないといけないということなんですが、そういう全体の仕組みづくりについてということで、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

業務委託の場合は、非常に難しい部分があるというふうに思っておりますけども、かといって、また評価の方法を持ち合わせないというのも、やはり事業推進の上でも課題を残すと思われますので、この辺につきましては、すぐにつくり上げるかどうかは別ですけども、いずれにしても部内、あるいはまた庁内での十分な検討を進めてみたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

監査事務局長に伺いますが、会計監査の一環として委託が費用に見合った形で、効果的に執行されているかということを意識して監査を行われていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

横田監査委員事務局長。〔監査委員事務局長 横田靖彦君登壇〕

○監査委員事務局長（横田靖彦君）

お答えいたします。

監査委員事務局の監査の中では、財務監査を中心に監査を実施しておりますけれども、今ほど議員がおっしゃられたような視点を持ちまして、行政監査的手法を取り入れて実施をさせていただいてます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

委託契約について担当課でのチェック、内部監査でのチェック、最終的に会計監査でのチェックというふうにチェックのシステムがうまく、難しい形でなくて普通に回っていけば、いろいろとかけ違いも防いでいけるのではないかなと思います。

専門分野職員のスキルアップの話なんですが、担当課が委託するかどうかを判断して、入札などで業者選定をして、中間チェックを行い、成果品を受け取るというサイクルになるわけですが、その成果品である設計書や計画書に基づいて事業を執行するということです。

担当職員や委託契約者が百点満点の仕事をするということが前提であれば、それぞれが肅々と仕事を進められるだけで十分なわけですが、そうはいかないですね。委託先に糸魚川市の地元のことがよくわかるスペシャリストとして要求しながら、こたえさせていかなければいけないということがあると思うんですよ。

成果品をチェックするには、立案者に負けない能力が必要となる場合が多い。それも細かい内容を見ると、それから大きな目で物事を見て判断するという能力を養っていかなければ、その事業の目的という大きな観点から、技術的な細かいことだけじゃなくて、そういう能力を養うことが必要だと思うんですが、こういう点についての職員のスキルアップということで、どう考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務部長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

専門職員、これは技術者も含めてでございますが、能力を向上させるということは、逆にチェック機能がしっかり働くということだというふうに考えておりますし、この強化は重要なことだというふうに考えております。

今までも専門職員、もしくは技術職員の自学研修などへの参加や能力向上には、市のほうも補助したり支援をしてきたところでありますが、さらなる専門分野の研修強化について、今後どのような形が効率的なのか、効果的なのかを、もう少し検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

現状についてもうちちょっと聞かせてもらいたいんですが、技術職員と、それから一般行政のほうの職員といいますね。建築設計なんか、また土木工事の設計もそうですけど、これは技術者。あと計画的なところは一般の行政職員さんということになるんですが、こういうふうに分けた中での庁内の研修システムとか、例えばOJTも含めたスキルアップを図っていくためのいろいろな機会というのは、どういうふうに設けられているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺辰夫君登壇〕

○総務課長（渡辺辰夫君）

庁内における研修であります。建築、それから土木の関係の研修につきましては各所管課のほうで、いろいろな機関から示される研修の中から選んで参加をしていただいております。

また、事務職員の研修についても同様に、各機関のほうから、こういった研修がありますよという紹介がありますので、それに対して各担当課係長、場合によっては課長が判断する中で、研修に出しているということでもあります。

また、内部における研修については、主に現在行われているのは事務職員系の研修、それから接遇であるとか、そういった職員としてのあるべき部分の研修というものが、庁内で外部の講師を招いたりしながら進められているという状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

担当課からちょっと答えてもらいたんですが、土木と建築に分けて、それぞれどなたでもいいんですが、技術的なほうの日進月歩の部分がありますよね。そういう部分の技術習得にかかわる研修というのは、どういうふうになってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

一般的な技術職員の研修については、主に県の技術協会から、ある程度年間の例えば技術の研修の項目なり、あるいは期間を春先に一覧でいただきまして、その中で割り当てなり、各技術職のスキルに合わせた研修を行っております、初級なり中級なりという。建築は建築で、当然、県の住宅のほうからもまいります。ただ、それがいろんな意味の中で1日ぐらいの研修が主なものですから、そのために、よほど専門的に4日、5日なり行くというのは、なかなか今難しい状況ですけど、1日、2日であれば、そのような状況を見ながら、その職員の資質に合ったものを、できるだけ時間の許す限りということで、やってる状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

今のは土木も建築も一緒だと考えていいんですね。それを今度庁内で水平展開、行ってきた職員ですけど、今度は庁内で、ほかの職員さんにも当然展開していかなくちゃいけない。それはどうなっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

これは1例ですから全部が全部ということではありませんが、たまたま今週の土曜日に県の耐震の、それは建築のほうなんですけど、大勢で参加すればいいんですけど、なかなかそういうわけにいかなくて、1人参加して、その資料を持ち寄って、また係内でその情報を分かち合うと。

それから今、土木のほうも、橋りょうのほうの長寿命化の研修等が定期的にありますので、その辺は持ち帰った者が、例えばこういう仕組みであるとか、それから研修に行ってきた資料を、当然係であればその係の中で復命をするわけですから、その中で。それが徹底的に時間をとって、講師がわりというところまではなかなかいきませんが、回覧をする中で、疑問の点を聞き合うという形をとっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

やっぱりその水平展開のほうが、非常に重要だと思うんですね。例えば1カ月に1回、外部講習を受けてきた者が、短い時間でいいですからその資料を関係者にみんな配った中で、ぱっと簡単に説明して、後は読んでおいてくれと、わからんことは聞いてくれよというようなことを徹底することで、漏れがなく展開をしていくということがいえると思うんです。

これは行政職員のほうで、計画だとか、法律にかかわっていくようなものに伴って、計画とかということについても全く同じことが言えるんだろうと思うんですね。やはりそういうところがしっかりしていないと、担当者ごとに差が出ると。事務執行のシステムに必要な要素の1つは、だれがやっても、あるレベルは確保できるという仕組みをつくっていかなくちゃいけないわけですよ。今、大分行われてから時間がたちましたが、ISO9001なんていうのは、やはりそこを目指していると。仕組みをつくることによって、だれがやっても、あるレベルに到達できるというふうにしていかなければいけないということなんですね。

そういう意味で、いろいろな形で職員を刺激しながら、意識改革を行っていかなくちゃいけない。行革についても中でも再三言ってますが、職員の意識改革が必要であると。それはやはり強いトップダウンから、スタートしなければいけないということではあるんですが、この教育のシステムもその中で大きく役立っていかなくちゃいけないというところだと思うんですが、この点についてはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

田鹿総務部長。〔総務部長 田鹿茂樹君登壇〕

○総務部長（田鹿茂樹君）

お答え申し上げます。

再三行革の関係でも職員の意識改革が、まず最初の行革の第一歩であるということを議員のほうからも教えていただいておりますし、我々もそのつもりでやっております。市長のほうからも、そういう意識を持てということは、常日ごろ部課長会議を通じて指示を受けております。我々としては、今後もまた部課長会議を通じながら、職員のまず意識改革が、いろんな意味での第一歩だということを進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

委託業務の完成検査ということなのですが、評価については行っていないということだったのですが、実際検査はして受け取っているということで、検査のときの検査項目というのは決まっているんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

完成検査の段階のことですけれども、あらかじめ示されている仕様書に基づく内容の確認、それから発注段階での受注者側への指示事項が、すべて完了しているかどうかのチェックを、完成検査時に行うということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

この辺はちょっと繰り返しの話になるかもしれませんが、完成検査にはやっぱり評価項目がないと本当は検査になりませんよね。今言われたように委託の仕様書に基づいて、その条件がクリアされているかということも大事でしょうが、それだけではなくて、それぞれの項目について評価をしながら、その後に生かしていくということも重要だと思うんですよ。評価は難しいといいますが、やりながら改善していけばいいと思うので、できれば早い時期に、その評価の仕組みをつくってもらいたいなというふうに思います。

完成検査時の評価だけではなくて、この辺もちょっと先ほどと重なる話ですが、事業執行時だからこそわかる委託成果物の評価というのがありますよね。それを今度行った結果、最終的に事後評価を行う、これも先ほど言いましたが、それを今度は委託先に通知すると。こういうものを受け取ってこうだったけど、こうだったんですよと、もっとこういうところがどうだったというような話は。それを通知するとともに、その後の事業執行に役立てていくというようなやり方もあると思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

業務委託の評価についての部分の延長線だというふうに思います。県もまだこの業務委託の部分につきましても、評価基準というのを持ち合わせていないという情報もお聞きしておりますけども、今ほどのように完成検査で終わるもの、あるいは、それから今後の今度、その先のことでの今ご質問かと思しますので、その辺の部分につきましても先ほどの検討項目とあわせて、検討はしてみたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（古畑浩一君）

伊藤議員。

○13番（伊藤文博君）

事後評価の結果というのは、関係部署全体に周知されなければいけない、水平展開して。結果を知らない人がいて、不適格業者を指名してしまったというようなことがあれば、これは市民に対する背任行為ということになってきますね。その辺もしっかり組み立ててもらいたいと思います。

最初から言ってますように、まず委託するかどうか、業者の選定、契約の当然内容、それから中間でのチェック、それも理事者を交えた、理事者の意見をしっかり組み込んだディスカッション的な協議、そして完成検査の内容と、そのときの評価。そしてその事業執行をしていく段階での評価と、終わった後の事業評価というようなことの中で、委託に関して難しく考えなくて、ちゃんちゃんと進んでいくような仕組みをつくることは、そう難しいことじゃないと思いますので、委託について頭から最後までちょっと洗い直して、システムを構築していただきたいとお願いして、終わります。

○議長（古畑浩一君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

本日はこれにとどめ、延会いたします。

長時間、大変ご苦勞さまでございました。

〈午後4時30分 延会〉

+

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+

+

+